

第4期安芸地域アクションプランの進捗状況確認資料

安 芸 地 域 本 部

令和5年2月8日（水）

安芸地域アクションプランの進捗状況確認資料 (令和4年度第3四半期の実施状況と令和5年度の展開)

R5.2.8
安芸地域本部

1 地域アクションプランの令和4年度第3四半期の実施状況と令和5年度の展開（総括）

(1) 総評

令和4年度は、全項目（30項目）について、実行支援チームを編成し、各市町村のまち・ひと・しごと創生総合戦略の取り組みと歩調を合わせて、市町村や関係団体、民間事業者等との連携・協働により、それぞれの目標達成に向けて各地域アクションプランの取り組みを推進している。

新型コロナウイルス感染症拡大の波が繰り返される中、各地で集客イベントの開催や、行動制限の緩和、全国旅行支援をはじめとする需要喚起策等により、地域の観光施設や宿泊施設等への入込客数はコロナ前の水準に戻りつつある。加えて、物価や原油価格の高騰など厳しい状況が続いているものの、社会・経済構造の変化等に対応した新たな取り組みや県市町村の独自の支援策を活用した取り組みなど、地域経済の回復に向けた動きも見られる状況となっている。

農業分野では、ユズについて、栽培講習会の実施、優良系統苗の確保などに取り組み、生産者の栽培技術向上につながったが、令和4年産は全体的に裏年傾向であることから、総出荷量は平年を下回ると見込まれる。ナスについては、生産拡大と産地力の向上を目指して、環境制御技術の推進、環境データや生体情報に基づく栽培指導などに取り組み、令和4年度は目標値を上回る出荷量が得られた。また、消費拡大・付加価値向上に向けて、加工品の開発や機能性表示を利用した販売促進に取り組んでいる。

林業分野では、新型コロナウイルスの感染拡大による影響が一部で見受けられる中、土佐備長炭の生産量拡大を目指して、原材料の確保に向けた森林情報の解析を進めるとともに、生産技術を継承する後継者育成のための研修や原木の地域内再生産による生産コスト縮減など、地域伝統産業としての基盤整備に取り組んでいる。

さらに、林業加工品関係では、馬路地域の林業事業者が経営力強化のために事業計画の見直しや経費縮減を目指した事業戦略の策定に取り組み、事業の維持と雇用の継続に努めている。

水産業分野では、近海マグロの加工品開発や製造体制の構築、加工業者による衛生管理の推進など、付加価値向上と販路拡大の取り組みを進めている。

商工業分野では、芸西村の特産品であるサトウキビを活用した加工品の開発や販売促進に取り組んでいるほか、安芸市において、令和4年5月に安芸市中心商店街等振興計画を策定し、市内事業者や地域住民が連携して振興計画に基づく取組を進めている。

観光分野では、コロナ禍の影響は依然としてあるものの、令和4年4月には奈半利町海浜センターがリニューアルオープンするなど拠点施設の魅力向上が進んでいるほか、新たなグルメ開発や土佐の観光創生塾を活用した着地型観光商品の造成・磨き上げなど、観光コンテンツの充実に取り組んでいる。また、安芸地域での宿泊者を対象としたクーポンによる誘客促進事業の影響もあり、観光入込客数、圏内宿泊者数及び観光消費額は、昨年度を上回る結果となっている。さらに、日本遺産のストーリーを活用した新たなツアー商品造成や、DMV（デュアルモードビークル）の運行を契機とした観光面での徳島県との連携に取り組んでいるほか、高知県東部観光協議会を中心に教育旅行の誘致、受入拡大やマーケティングの強化を図っている。今後は、新たな旅のスタイルの視点も取り入れながら、国・県の事業や、マーケティングデータを活用したコンテンツ造成及び情報発信等に取り組んでいくとともに、県の観光博覧会を契機とした観光拠点や観光ガイドの磨き上げ等を行い、受入体制の強化に努めていく。

令和5年度も、引き続き実行支援チームを編成し、事業推進に向けた協議と進捗管理を行うとともに、市、関係機関等と連携し各種支援制度の活用などにより、それぞれの目標の達成に向けて取り組んでいく。

(2) 目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

指標	達成度の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

(注) Pの「目標」は、R5は第4期産業振興計画の目標、R2～R4はR5目標に向けての到達目標

分野	項目名及び実施主体	指標及び出発点	【P (Plan)】				R4計画	R4取組状況	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
			年	目標	実績	達成度			現時点の進捗状況			
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
農業	1 安芸地域のユズを中心とした中山間振興(安芸地域全域) 【実施主体】 ◎JA高知県(安芸地区) ◎JA馬路村	総出荷量(JA高知県:4~3月)5,079t(H27-R元平均)	R2	5,100 t(H29-R2平均)	5,139t(H29-R2平均) [5,529t]	A	1 新植・改植の推進 ・勉強会や講習会の開催 ・優良系統苗木確保に向けた取組(母樹管理指導、穂木確保、新規優良系統探索等) ・生育調査の実施(発芽、開花、肥大調査)	1 新植・改植の推進 JA高知県安芸地区 <勉強会や講習会の開催> ・21回(4~10月) ・モデル園での栽培管理資料の掲示:7回(月末:4~10月) ・ユズ栽培便りの発行:7回(月末:4~10月) <優良系統苗木確保に向けた取組> ・関係機関での優良系統探索方法等の検討:2回(4/8・11) ・生産者への優良系統現地調査の提案、優良系統に関する情報提供の呼びかけ:13回(4~10月) ・優良系統現地調査:2回(10/6・7) ・母樹園設置に向けた北川村との協議:7回(6~12月) ・母樹園管理に関する先進事例調査(いの町等):7/22 <生育調査の実施> ・発芽、開花、肥大調査の実施:19回(4~9月) <病害虫の発生予察> ・病害虫予察調査(3箇所):6回(5~10月) <園地台帳の整備> ・安芸市畑山地区、東川地区での年間スケジュールの検討:4/8 ・園地調査、営農意向調査の内容等の検討:2回(畑山地区:6/14、東川地区:6/21) ・園地調査の実施(畑山地区):6回(9~12月) ・園地台帳の運用方法等についての検討:2回(9/28、12/8)	R4年度の総出荷量は未確定 ・R4目標達成率:-% ・対前年同期比:-%	-	(成果) ・生育調査・病害虫の発生予察データを用いて、勉強会等で栽培講習会を行い、適期防除の実施につなげた。 ・コロナの影響により、勉強会等の開催が制限される中で、モデル園や栽培便りを活用し生産者へのタイムリーな栽培管理指導につなげた。 ・北川村において優良母樹確保に向け危機感をもった対応が検討され始めた。 ・園地調査、営農意向調査の内容等を検討し、畑山地区では園地調査を実施できた。 (課題) ・優良母樹確保の仕組みづくり ・効率的、効果的な園地調査、営農意向調査の実施と台帳の利活用 (今後の方向性) ・勉強会や講習会の開催等による栽培管理指導を継続する。 ・JA、北川村等と連携し、優良母樹園管理、優良苗木確保の仕組みづくりを進める。 ・営農意向調査をもとにした園地台帳の作成を支援する。	1 新植・改植の推進 ・勉強会や講習会の開催 ・優良系統苗木確保に向けた取組(母樹管理指導、穂木確保、新規優良系統探索等) ・生育調査の実施(発芽、開花、肥大調査)
			R3	5,300 t(H30-R3平均)	5,169t(H30-R3平均) [4,608t]	B						
			R4	5,400 t(R1-R4平均)								
			R5	5,500 t(R2-R5平均)								
	2 ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓	通販売上高(JA馬路村:1~12月)8.1億円(R元)	R2	8.5億円	8.1億円	B	2 ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓 <SNS等を利用した消費宣伝> ・SNS等を利用した消費宣伝 ・青果輸出に向けた取組(指導、出荷量検討等)	2 ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓 <SNS等を利用した消費宣伝> 【JA高知県安芸地区】 ・消費拡大・販路開拓に向けた協議(柚子部役員会):2回(4/22、9/15) 【JA馬路村】 ・関係機関での取組計画等の共有:3回(6/22、9/2、12/21) ・新商品発売(4~12月で5商品) <青果輸出に向けた取組(指導、出荷量検討等)> 【JA高知県安芸地区】 ・勉強会や講習会の開催:21回(4~10月) ・モデル園での栽培管理資料の掲示:7回(月末:4~10月) ・ユズ栽培便りの発行:7回(月末:4~10月) ・E Uへの青果輸出に向けた選果指導:1回(11/14)	6.6億円(11月末時点)(R3.11月末 6.8億円) ・R4目標達成率:84.7% ・対前年同期比:97.1%	C	(成果) 【JA高知県安芸地区】 ・消費宣伝等販路開拓の取り組みについて柚子部役員で検討できた。 ・コロナの影響により、勉強会等の開催が制限される中で、モデル園や栽培便りを活用し生産者へのタイムリーな栽培管理指導につなげた。 【JA馬路村】 ・通販事業の顧客獲得や売上高の増加に向けて、継続的に新商品が開発・販売された(「ゆのすチャージ(飲むゼリー)」、「ごっくん馬路村ラベルレス」、「ゆずのリキュール(リニューアル)」、「ゆずのリキュール(辛口)」、「ゆずチョコビール」)。 (課題) ・販路拡大(輸出を含む)、通信販売の売上拡大に向けた新商品等のPR (今後の方向性) ・販路拡大、通信販売の売上拡大に向けたJAの取組を支援する。 ・生産物、原材料の安定確保に向けた栽培管理指導を継続する。	2 ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓 ・SNS等を利用した消費宣伝 ・青果輸出に向けた取組(指導、出荷量検討等)
			R3	8.5億円	8.1億円	B						
			R4	8.5億円								
			R5	10億円								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(%)	現状分析	
農業	2 日本一のナス産地拡大クラスタープロジェクト (空戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、芸西村) 【実施主体】 ◎JA高知県(安芸地区) ゆめファーム全農こうち(株)アグリド土佐あき安芸市担い手支援協議会 安芸市施設園芸消費拡大委員会 (一社)高知県東部観光協議会 (一社)安芸市観光協会 安芸商工会議所 地元加工業者加工グループ 地元飲食店 地域直販所 (一社)こうち絆ファーム ※地域産業クラスター関連(日本一のナス産地拡大クラスタープロジェクト)	出荷量(9~8月) 18,674t	R2	19,000t	18,996t	B	1 生産拡大と品質向上の取り組み ・ゆめファーム全農こうちへの技術指導 ・環境制御技術の推進 ・生理障害果対策 ・新規就農者の早期経営安定支援 ・アグリサポートによる労働力確保	1 生産拡大と品質向上の取り組み <ゆめファーム全農こうちへの技術指導> ・事業計画等に関する打合せ: 2回(4/13、9/21) ・「つる下ろし栽培現地検討会」の開催: 2回(5/23、9/21) ・「つる下ろし栽培勉強会」の開催: 2回(8/4、12/14) <環境制御技術の推進> ・環境制御技術導入農家等への個別指導: のべ251回(4~6月)、のべ129回(6~9月)、のべ270回(10~12月) ・環境データ(温度、湿度、炭酸ガス濃度、かん水等)に基づく栽培指標案の作成(4~6月) ・栽培指標案を活用した栽培指導(9月~) ・データを個別にフィードバックするためのフォーマットの検討(7~9月) <生理障害果対策> ・「つやなし果」の発生実態調査: のべ297圃場(4~6月)、のべ30回(10~12月) ・関係機関、対象農家との発生実態、対策の共有: 7回(5~12月) <新規就農者の早期経営安定支援> ・個別巡回による状況把握と技術指導: のべ28回(5~6月)、のべ90回(7~9月)、のべ80回(10~12月) ・関係機関との情報共有: 11回(5~6月)、23回(7~9月)、26回(10~12月) <アグリサポートによる労働力確保> ・関係機関との取組計画の共有: 2回(5/27、8/24) ・労働力確保に向けた農運連携の推進: 9回(4~12月)	20,465 t (R4速報値) (R3 19,119 t) ・R4目標達成率: 104.9% ・対前年比: 107.0%	A	(成果) ・つる下ろし栽培の利点、特徴等に関する理解が深まった。 ・つる下ろし栽培によって収量35t/10aが達成された。 ・温度、炭酸ガス施用時期、ガス濃度等の指標案が作成できた。 ・重点対象農家(10戸)における「つやなし果」の平均発生率は前年同期に比べ5.8%減少した。8月定植の今作では12月までつやなし花の発生はほとんど見られない。 ・病害の発生が少ない農家で実施されている温度管理を把握できた。 ・新規就農者20名のうち19名、環境制御等の技術改善に取り組み9名は全員が目標収量の達成が見込まれる。 (課題) ・温湿度、ガス濃度等の環境データの更なる蓄積と分析による指標案のリバイス。 ・IoTクラウド「SAWACHI」から得られる生体情報を活かした農家指導。 ・IoTクラウド「SAWACHI」を活用した農家へのタイムリーな情報発信。 ・目標収量未達成者への重点的な指導。 ・農繁期の労働力確保 (今後の方向性) ・環境データに生体情報を加えた分析による指標案のリバイス、新規就農者への重点的な指導、新聞折り込みチラシ等による農繁期の労働力確保等によって、出荷量の拡大を図る。	1 生産拡大と品質向上の取り組み ・ゆめファーム全農こうちへの技術指導 ・環境制御技術の推進 ・生理障害果対策 ・新規就農者の早期経営安定支援 ・アグリサポートによる労働力確保
			R3	19,200t	19,119t	B						
			R4	19,500t	20,465t (速報値)	A						
			R5	20,000t								
	新規加工品開発数 (4~3月) 2件 (H29~R元累計)	R2	1件	2件	S	2 ナスを使った新規加工品の開発・販売 ・業務用冷凍揚げナスの開発支援(試作、OEMの調査等) 3 ナスの消費拡大と認知度向上 ・機能性表示を生かした青果販売 ・新たな料理レシピ動画の制作 ・ナス料理等提供店と連携したスタンプラリーの開催	2 ナスを使った新規加工品の開発・販売 <業務用冷凍揚げナスの開発支援> ・事業計画について打合せ(5/16) ・6次産業化チーム会: 7回(5~10月) 関係機関での「安芸グループふぁーむ」の状況把握、試作検討 ・6次産業化セミナーの受講: 5回(7~11月) ・業務用冷凍揚げナスの試作: 3回(9/1、10/12、11/14) 3 ナスの消費拡大と認知度向上 <機能性表示を生かした青果販売> ・消費拡大連絡協議会での販売方法の検討: 5回(5~12月) ・テレビ局によるナスPRへの撮影協力(5月) ・消費拡大委員会による安芸市産の野菜等の詰め合わせセット販売企画の実施(6月) <新たな料理レシピ動画の制作> ・既存レシピ動画「なすのたたき」、「ナスの豚肉巻き」の再編集(6/20) ・ごめんなはり線20周年記念イベントへのなすマダム出店(7月) ・レシピ及びなす栽培の動画作成打合せ(8/2) ・新たなレシピ動画の作成(10/21) <ナス料理等提供店と連携したスタンプラリーの開催(11/17~2/17)> ・ナススタンプラリー協議会の実施(7/21、8/26) ・チラシづくりのためのアドバイザーとの打合せ(9/8) ・再編集した「なすの機能性」動画を観光情報センターで配信(9/29~) ・消費拡大委員会HPにナス料理提供店18店舗掲載 ・ナスを活用したイベント(軽トラマルシェ)を開催(6/26)	0件(R2~4累計2件)(12月末時点) (R3.12月末 0件(R2~3累計2件)) ・R4目標達成率: 0% ・対前年同期比: 0%	D	(成果) ・6次産業化セミナーを受講し、加工方法等に対するアドバイスを受けながら、試作・商品化に向けた取組が進んだ。 ・量販店向けのレシピ動画「なすのたたき」、「ナスの豚肉巻き」(1分程度バージョン)、新たなレシピ動画「なすとエビのさくさくはさみ揚げ」を作成した。 ・定植、糸釣り作業の動画を8月に撮影した。 ・東京調理製菓専門学校生対象の出前授業やABCクッキングスタジオとのコラボにより、なすの機能性や栽培方法についてPRできた。 ・飲食店(4店舗)がスタンプラリー協議会に加入し、実施体制が整備された。 ・なすスタンプラリーが開始された(11/17~2/17)。 ・軽トラマルシェを開催し、会場には500名以上の集客があった。 (課題) ・OEM先の選定、需要調査の実施 ・機能性表示を生かした販売促進 ・PR動画の編集と新たな動画撮影 (今後の方向性) ・新規加工品「冷凍揚げナス」の開発を進める。 ・OEM先の選定を支援する。 ・動画の作成やスタンプラリーの開催を支援し、消費拡大につなげる。 ・新たな「ナス2本のレシピ」の作成	2 ナスを使った新規加工品の開発・販売 ・業務用冷凍揚げナスの開発支援(試作、OEM先の調査等) 3 ナスの消費拡大と認知度向上 ・機能性表示を生かした青果販売 ・新たな料理レシピ動画の制作 ・ナス料理等提供店と連携したスタンプラリーの開催	
		R3	1件	2件 (R2~R3累計)	A							
		R4	1件									
		R5	3件 (R2~R5累計)									

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(%)	現状分析	
農業	3 東洋町のボンカンの加工品開発と後継者確保による地域振興 (東洋町) 【実施主体】 ◎フクチャンFARM ◎東洋町 ボンカン生産者 甲浦の果樹仲間	商品開発数 15商品 (H28～R元累計)	R2	1商品	0商品	D	1 ボンカン加工品の新商品開発と販路拡大 ・新商品の検討・開発・販売 ・既存商品の磨き上げ ・プロモーション活動の実施 ・商談会等への参加 ・東洋町ボンカン振興対策協議会への参画 2 後継者の確保 ・地域おこし協力隊の募集及び受け入れ体制の整備 ・各関係機関との連携 ・東洋町ボンカン振興対策協議会への参画 ・移住フェアや農業人フェア等への参加	1 ボンカン加工品の新商品開発と販路拡大 ・まるごと高知商談会を東洋町で開催(6/24) ・甲浦集落活動センターなごの落成式で、ボンカンジュース鏡開きを開催し、PRを行う(6/25) 2 後継者の確保 ・移住サイトへの掲載 ・移住フェアへの参加(6/19、6/26) ・JTBAグリケーションの検討・実施 ・農業人フェアへの参加(バツグン協同組合)	0商品(11月末時点) (R3.11月末 1商品) ・R4目標達成率:0% ・対前年同期比:0%	D	(成果) ・商談会で、商品の認知度を上げるためのアプローチの仕方や、最近の購買傾向等を聞くことができた。今後、販売方法の工夫や売り方について考えるきっかけとなった。 ・移住フェアやワーキングホリデー・アグリケーションの活用により、ボンカンの栽培に興味を持ってもらうきっかけにつながった。また、移住と後継者確保について関係者間で協議を開始することができた。 (課題) ・東洋町のボンカンの認知度の低さ。 ・果汁の販路拡大。 ・後継者の確保 ・地域おこし協力隊や新規就農者の受け入れ体制の整備 (今後の方向性) ・各関係機関と連携し、PRや果汁の販路拡大に向けて検討していく。 ・町移住担当と協力し、後継者確保に向けた取組を検討していく。 ・移住フェアだけでなく、アグリワーケーションやワーキングホリデーなどを活用し、東洋町・ボンカンを知ってもらうきっかけを多く作っていく。	1 ボンカン加工品の新商品開発と販路拡大 ・新商品の検討・開発・販売 ・既存商品の磨き上げ ・プロモーション活動の実施 ・商談会等への参加 ・東洋町ボンカン振興対策協議会への参画
			R3	1商品	1商品	A						
			R4	1商品								
			R5	1商品								
			R2	8,000個	7,940個	B						
		商品の販売数 (1～12月) 6,574個 (H30)	R3	8,100個	8,396個	A						
			R4	8,200個								
			R5	8,400個								
			R2	21t	31t	S	1 技術を継承する人材の育成 ・情報発信の強化とモニターの確保 2 白玉糖の販路拡大・品質向上 ・白玉糖の販路拡大・生産拡大 取扱い事業者の開拓 サトウキビの生産量の拡大 ・衛生面の強化 白玉糖の生産時におけるHACCPに対応した衛生手順の順守 3 体験メニューの造成・磨き上げ ・製糖組合、ロイヤルホテル土佐、芸西村、県での協議	1 技術を継承する人材の育成 ・フェイスブック等を活用した情報発信と人材募集(モニター2組参加) ・集落活動センター会員を芸西村HP及び総会にて募集 2 白玉糖の販路拡大・品質向上 <白玉糖の販路拡大・生産拡大> 【芸西村製糖組合】 ・まるごと高知商談会への参加(6/23) ・6次産業化商品販路拡大活動事業費補助金を活用した販路の拡大 9月:北海道の取引先への商談に出張 11月:カシオオープンゴルフ会場での白玉糖のPR ・文化庁100年フード事業に「白玉糖」をエントリー(11月) 【集落活動センターげいせい】 ・まるごと高知商談会への参加(6/23) ・グルメ&ダイニングスタイルショーに出展(9/7～9) ・高知県産品商談会に参加(10/26) <衛生面の強化> ・芸西村伝承館の衛生環境の管理 3 体験メニューの造成・磨き上げ ・製糖体験メニューの広報	R4年度の収穫は11月～12月 ・R4目標達成率:-% ・対前年同期比:-%	-	(成果) ・白玉糖を活用した加工品の取引先を拡大する商談会へ参加し、取引拡大につながった。 ・サトウキビづくりのモニターの確保(2組) ・「白玉糖」PRチラシをカシオオープンゴルフ会場で配付し、認知度向上に繋がった。 (課題) ・HACCPに対応した施設の整備に向けて関係者と協議を進める必要がある。 ・コロナ禍の影響による白玉糖づくり体験の人数の伸び悩み。 (今後の方向性) ・白玉糖の販路拡大と品質向上及び白玉糖づくり体験メニューの広報を実施。	1 技術を継承する人材の育成 ・情報発信の強化とモニターの確保 2 白玉糖の販路拡大・品質向上 ・白玉糖の販路拡大・生産拡大 取扱い事業者の開拓 サトウキビの生産量の拡大 ・衛生面の強化 白玉糖の生産時におけるHACCPに対応した衛生手順の順守 3 体験メニューの造成・磨き上げ ・製糖組合、ロイヤルホテル土佐、芸西村、県での協議
			R3	23t	34.8t	S						
R4	35t											
R5	38t											
R2	30人	10人	D									
体験プログラム参加人数 21人 (R元)	R3	50人	35人	C								
	R4	100人										
	R5	200人										
	R2	30人	10人	D								
	R3	50人	35人	C								
R4	100人											
R5	200人											

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
林業	5 土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化 (室戸市、東洋町) 【実施主体】 ◎室戸市木炭振興会 ◎土佐備長炭室戸生産組合 ◎土佐備長炭生産組合 ◎上土佐備長炭東洋組合 ◎備長炭生産者 室戸市 東洋町	生産量 1,284 t (H30)	R2	1,334 t	1,232 t	B	1 従事者の拡大 ・新規研修生の受け入れ 2 生産施設の整備 ・製炭窯の設置等 3 原木林の造成 ・ウバメガシ人工造林に関する情報収集等	1 従事者の拡大 ・新規研修生の受け入れ (室戸市0名、東洋町0名) ・研修継続 (室戸市2名、東洋町1名) ※新規研修生の面接実施4/13(研修まで至らず) 2 生産施設の整備 ・上土佐備長炭東洋組合 (東洋町：製炭窯3基増設に着手。現在、製作中) ・製炭原木搬出用の作業路20路線6,500mを開設予定(室戸市) 県内示7/1 県交付決定9/2 ※現在、事業実施中。 3 原木林の造成 ・ウバメガシの苗木確保方法の検討 ・カシノナガキクイムシ被害定点点調査の実施とナラ枯れ被害対策連絡協議会を開催予定 (室戸市)	一万円 (一月末時点) ・R4目標達成率：- % ・対前年同期比：- %	ー (成果) ・2年目研修生の継続 ・新たな製炭窯3基の着手 (現在、製作中) (課題) ・新型コロナウイルスの影響による生産調整 ・製炭用原木の調達 (今後の方向性) ・新規研修生の受け入れを含めた取り組みの継続と、ウバメガシの苗木確保方法の検討	1 従事者の拡大 ・新規研修生の受け入れ 2 生産施設の整備 ・製炭窯の設置等 3 原木林の造成 ・ウバメガシ人工造林に関する情報収集等	
			R3	1,434 t	1,223 t (推定値)	B						
			R4	1,484 t								
			R5	1,534 t								
林業	6 馬路の林業加工品の販売促進 (馬路村) 【実施主体】 ◎ (株) エコアスマ路村 ◎馬路林材加工協同組合 ◎馬路村森林組合	木製品出荷額 1.78億円 (H30)	R2	1.92億円	2.09億円	A	1 営業力の強化 ・販路の開拓 ・新製品の開発 2 収益性の改善 ・加工機械等の導入 ・経営体質の強化	1 営業力の強化 ・自社ネットショップの販売強化 (エコアス) ・ノルティ向け「木のうちわ」DMの送付 (エコアス) ・モナッカ(ポストマン)の商品改良 (エコアス) ・安芸森林管理署への営業活動 (森林組合) ・木材乾燥機の導入に向けての検討 (林材) ・産振アドバイザー制度を活用した大阪方面への営業活動 (馬路林材) 2 収益性の改善 ・経営コンサルによる事業計画の実行支援 (林材：7回実施 (自己負担で対応)) ・木材乾燥機の導入のための事業計画の検討 (林材：支援策や仕様等) ・品質向上のための製品倉庫の建築 (林材：経済産業省の事業採択) ・産業振興センターによる経営指導 (エコアス：2回予定) ・機械装置の改良や老朽化した機械装置の買い換えの検討 (エコアス、林材、森林組合)	14,195万円 (10月末時点) (R3.10月末 12,940万円) ・R4目標達成率：118.1% ・対前年同期比：109.7%	S (成果) ・ネットショップによる販売 (エコアス) ・モナッカ(ポストマン)の商品改良 (エコアス) ・アドバイザー制度を活用した大阪方面への営業活動によりモデルルーム建設の提案を受け、今後の取り組みについて検討することができた。(林材) (課題) ・新型コロナウイルスの影響による卸販売の減少 ・収益性の改善 (今後の方向性) ・営業業務のリモート化など幅広い営業活動の検討 ・収益が低い商品の見直しやリスクの少ない新しい商品の開発 ・アドバイザー制度を活用した大阪方面への営業活動の継続 (林材)	1 営業力の強化 ・販路の開拓 ・新製品の開発 2 収益性の改善 ・加工機械等の導入 ・経営体質の強化	
			R3	1.99億円	2.52億円	S						
			R4	2.06億円								
			R5	2.13億円								
			雇業者数 (加工部門) 22人 (H30)	R2	22人	22人	A		21人 (10月末時点) (R3.10月末 22人) ・R4目標達成率：95.5% ・対前年同期比：95.5%	B (今後の方向性) ・営業業務のリモート化など幅広い営業活動の検討 ・収益が低い商品の見直しやリスクの少ない新しい商品の開発 ・アドバイザー制度を活用した大阪方面への営業活動の継続 (林材)		
				R3	22人	22人	A					
				R4	22人							
				R5	22人							

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
水産業	7 芸東地域の水産物の付加価値向上と販路拡大 (室戸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町) 【実施主体】 (1)漁業者 ◎ (株) 美阿丸 土佐室戸鮭軍団 室戸市定置漁業振興協議会 中芸定置網漁業振興協議会 (2)水産加工業者 ◎ (有) タカシン水産 (佐喜浜工場) ◎ (有) 山本かまぼこ店 漁師の食卓	漁業者による加工品販売額 45万円 (H30)	R2	147万円	63万円	D	1 漁業者による加工品の製造販売 ・加工場建設 ・商品開発 ・商談会等への参加 ・ネット販売の実施 ・各種イベントの実施や広報 (近海マグロのPR)	1 漁業者による加工品の製造販売 【(株)美阿丸】 ・加工場建設 4～7月に2回打ち合わせを実施 →7月に施工業者と契約、8月に着工 ・販路拡大 高知銀行の販売促進に関する支援事業に応募 (4月) ※高知の魅力発信プロジェクト2022によるアドバイザー制度 →採択 (4月下旬) 高知大丸や県外の東急ハンズ2店舗で既存製品の販売を開始 (期間限定) 高知銀行主催の商談会へ参加 9月より日曜市への出品を開始 (11月まで) 東京の東急ハンズにてテストマーケティングを実施 (11月) ・商品開発 高知銀行の支援事業にて現商品のパッケージの見直しを行い、新パッケージが決定 (8月) 商談会での意見や新規売り先での売れ行きを踏まえ、商品単価が高すぎるという課題が挙がったことから、単価設定の内容を再検討 (11月)	20万円 (9月末時点) (R3.9月末 23万円) ・R4目標達成率: 16.0% ・対前年同期比: 87.0%	D	【(株)美阿丸】 (成果) ・加工場建設が進行 (2月竣工予定) ・現商品のパッケージ変更によるブラッシュアップ (課題) ・コロナ禍中での商談会への参加 ・商品の改善 (今後の方向性) ・加工場建設の進捗を適切に確認し、予定どおり事業を実施 ・可能な限り商談会に参加 ・ネット販売に着手 ・内容量の削減や内製化 (加工場建設後) による単価の見直し	1 漁業者による加工品の製造販売 ・加工場建設 ・商品開発 ・商談会等への参加 ・ネット販売の実施 ・各種イベントの実施や広報 (近海マグロのPR)
			R3	198万円	70万円	D						
			R4	250万円								
			R5	300万円								
	水産加工業者の販売額 2.5億円 (H30)	R2	2.6億円	2.3億円	B	2 水産加工業者による加工品の製造販売 ・販路開拓・商品開発 ・施設整備 ・衛生管理体制の構築	2 水産加工業者による加工品の製造販売 【(有)タカシン水産】 ・販路開拓・新商品開発 ・ECサイトの継続した運営 【(有)山本かまぼこ店】 ・販路開拓・商品開発 継続的に取引先候補と協議 →複数の事業者と契約 (11月末時点で15社以上) 新商品の検討 →新商品「魚ん棒チーズ味」を開発 ・施設整備 7月11日に入札を実施 →資材高騰等の影響により不調 ・衛生管理体制の構築 →施設整備後に実施予定	0.8億円 (8月末時点) (R3.8月末 0.9億円) ・R4目標達成率: 68.4% ・対前年同期比: 88.9%	D	【(有)タカシン水産】 (成果) ・5月、8月に新商品を2種類開発。 ・ふるさと納税が引き続き好調。 (課題) ・県版HACCP第2ステージの申請が遅延 (今後の方向性) ・衛生管理体制の構築 【(有)山本かまぼこ店】 (成果) ・複数の事業者と新たな取引が開始 (11月末時点で15社以上) (課題) ・入札不調により産振補助金を取り下げたため、施設整備及びそれに伴う衛生管理体制 (県版HACCP更新も含む) の構築が遅延 ・新規取引先の定着 ・新商品の味の調整 (今後の方向性) ・令和5年度以降の施設整備の検討 ・県版HACCP更新は来年以降を予定 ・新規取引先の定着を目指した取組の検討 ・新商品の開発継続	2 水産加工業者による加工品の製造販売 ・販路開拓・商品開発 ・施設整備 ・衛生管理体制の構築	
		R3	2.7億円	2.1億円	C							
		R4	2.8億円									
		R5	3.0億円									

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
商工業	8 室戸海洋深層水による地域産業の推進 (室戸市) 【実施主体】 ◎深層水関連事業者 室戸市	スジアオリの生産量 (高岡漁港) 3.3t (H30)	R2	3.4 t	3.6 t	A	1 スジアオリ養殖事業の更なる発展 ・スジアオリ養殖事業の円滑な運営 2 深層水商品のブランド化による販売力の強化 ・各種イベント等への参加による海洋深層水のPR活動 ・安心感醸成のための海洋深層水の水質検査の実施・公表 ・海洋深層水の機能性表示への支援 3 海洋深層水を活用した新たな地域振興の取り組みの推進 ・室戸市海洋深層水推進構想のうち、アクアファームの経営改善、深層水PR事業に着手	1 スジアオリ養殖事業の更なる発展 ・4～6月生産量1,035 k g (乾燥重量) ※昨年同期895kg ・7～9月生産量1,215 k g (乾燥重量) ※昨年同期864kg ・種苗の投入量の試験 (投入量の調整による発育や生産量への影響の試験) 2 深層水商品のブランド化による販売力の強化 ・海洋深層水企業クラブのイベント出展 「土佐のおきやく」高知市中央公園イベント (5/13～15) 原宿スーパーよさこい (8/27～28) 土佐の豊稔祭 (11/5～6) ・海洋深層水の水質検査の実施・公表 (月1回) ・タケナカと芝浦工大との共同研究発表会 (6/23) 3 海洋深層水を活用した新たな地域振興の取り組みの推進 ・室戸海洋深層水の事業推進に関する情報交換会 (県・市) (6/6、9/9、12/21) ・給水施設保守点検委託業務 (入札) ・「にっぽんの宝物」事業の取り組み (深層水のPR) ・中国国際消費品博覧会へ深層水商品の出品 (7/26～30 中国海南省海口市) ・海洋深層水関連産業拡大のための事業計画の検討 (6/2、6/29) ・他県取水地情報交換 (10月 沖縄県海洋深層水研究所・久米島町役場、11月 富山県庁・入善町役場)	2,250kg (9月末時点) (R3.9月末 1,759kg) ・R4目標達成率: 128.6% ・対前年同期比: 127.9%	S	(成果) ・アクアファーム経営改善 (保守管理費の見直し) (課題) ・R3年度におけるスジアオリの胞子の育成不良 (今後の方向性) ・R元・R2の生産量の実績は、いずれもR5目標を達成する状況だったことから、R4の生産量の状況を見守る。 →R4は順調に推移	1 スジアオリ養殖事業の更なる発展 ・スジアオリ養殖事業の円滑な運営 2 深層水商品のブランド化による販売力の強化 ・各種イベント等への参加による海洋深層水の水質検査の実施・公表 ・安心感醸成のための海洋深層水の水質検査の実施・公表 ・海洋深層水の水質検査への支援 3 海洋深層水を活用した新たな地域振興の取り組みの推進 ・室戸市海洋深層水推進構想のうち、アクアファームの経営改善、深層水PR事業の実施
			R3	3.5 t	2.7 t	C						
			R4	3.5 t								
			R5	3.6 t								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(%)	現状分析	
商工業	9 キラメッセ室戸「楽市」を核とした地産地消・外商の拡大 (室戸市) 【実施主体】 ◎協同キラメッセ室戸(有) ◎室戸市	売上高 4.1億円 (H30)	R2	4.14億円	3.2億円	C	1 農産物の確保 ・実証圃の継続、栽培品目の選定 ・SNSを活用した情報発信 ・庭先集荷利用者に向けた説明会開催 2 加工品の開発、販路拡大 ・既存加工品の販路拡大に向けた情報発信、営業活動の継続 ・室戸海洋深層水(株)と連携した商品開発 ・広島県の道の駅たかのとの連携	1 農産物の確保 ・実証圃(ホウレンソウ、イチゴ)の継続 ・Twitterを活用した情報発信の継続 ・6月に「むらからまちから館」が閉店したことに伴い、野菜・果物が飽和状態となる危険性が発生したため、販路開拓に着手した。 ・道の駅たかのからの野菜入荷による農産物確保。 ・道の駅たかのへの視察を実施。(冬場の取引についての協議等も併せて行う) 2 加工品の開発、販路拡大 ・4月～、室戸海洋深層水(株)との商品開発(試作)を実施。 ・4月道の駅たかのに加工品を納品。 ・道の駅たかのとの連携スタートイベントを開催。(7/30、31) ・室戸海洋深層水(株)との商品開発について、アグリレット出荷者を対象とした研修会に参加し、専門家にアドバイスを仰ぐ(8/31)。	180,730,023円(10月末時点) (R3.10月末 176,112,227円) ・R4目標達成率：74.8% ・対前年同期比：102.6%	C	(成果) ・広島県庄原市にある「道の駅たかの」との取引開始により夏場の野菜不足が緩和した。 (課題) ・庭先集荷利用者に対する説明会が開催できていない。 ・「むらからまちから館」閉店に伴う、冬の時期における野菜の飽和が懸念される。 ・室戸海洋深層水(株)との試作品のブラッシュアップ。 (今後の方向性) ・道の駅たかのとのさらなる連携 ・室戸海洋深層水(株)との商品開発について、引き続き専門家からアドバイスを仰ぎ、完成に向けて取り組んでいく。	1 農産物の確保 ・実証圃の継続 ・SNSを活用した情報発信 ・道の駅たかのとの連携 2 加工品の開発、販路拡大 ・既存加工品の販路拡大に向けた情報発信、営業活動の継続 ・室戸海洋深層水(株)と連携した商品開発 ・道の駅たかのとの連携
			R3	4.14億円	3.43億円	C						
			R4	4.14億円								
			R5	4.2億円								
		レジ通過者数 251,612人 (H30)	R2	254,000人	212,342人	C	1 中心市街地の活性化に向けた新たな取り組みの実施 ・商工会HPを活用したチャレンジショップ利用者の募集・情報発信 ・地域おこし協力隊の雇用(5月～) 2 既存商店街の魅力向上に向けた取り組みの推進 ・中心市街地振興協議会にてイベントの開催に向けた協議を実施(7/14) ・イベント「飲んで食べてGoGo室戸スタンプラリー」を開催。(11/18～11/27)	4件(11月末時点累計) (R3.11月末 累計4件) ・R4目標達成率：200.0% ・対前年同期比：100.0%	S	(成果) ・地域おこし協力隊の確保。 ・チャレンジショップ2階部分に「お好み焼き じん」がオープンした。(8/20～) ・飲み歩きイベントを開催し、室戸市内の消費行動の促進に貢献できた。 (課題) ・6月末でチャレンジショップの1階部分の利用者が退去したことで、1階部分が空き状態となっている。 (今後の方向性) ・チャレンジショップ利用者募集に係る情報発信の強化	1 中心市街地の活性化に向けた新たな取り組みの実施 ・チャレンジショップ利用者の募集、情報発信 2 既存商店街の魅力向上に向けた取り組みの推進 ・イベントまたは観光情報発信体制の構築に向けた協議、実施	
			R3	254,000人	223,742人	B						
			R4	254,000人								
			R5	260,000人								
中心市街地での事業所の新規開業 — (R元)	R2		2件(累計)	A	1 中心市街地の活性化に向けた新たな取り組みの実施 ・実証圃の継続、栽培品目の選定 ・SNSを活用した情報発信 ・庭先集荷利用者に向けた説明会開催 2 加工品の開発、販路拡大 ・既存加工品の販路拡大に向けた情報発信、営業活動の継続 ・室戸海洋深層水(株)と連携した商品開発 ・道の駅たかのとの連携	180,730,023円(10月末時点) (R3.10月末 176,112,227円) ・R4目標達成率：74.8% ・対前年同期比：102.6%	C	(成果) ・広島県庄原市にある「道の駅たかの」との取引開始により夏場の野菜不足が緩和した。 (課題) ・庭先集荷利用者に対する説明会が開催できていない。 ・「むらからまちから館」閉店に伴う、冬の時期における野菜の飽和が懸念される。 ・室戸海洋深層水(株)との試作品のブラッシュアップ。 (今後の方向性) ・道の駅たかのとのさらなる連携 ・室戸海洋深層水(株)との商品開発について、引き続き専門家からアドバイスを仰ぎ、完成に向けて取り組んでいく。	1 農産物の確保 ・実証圃の継続 ・SNSを活用した情報発信 ・道の駅たかのとの連携 2 加工品の開発、販路拡大 ・既存加工品の販路拡大に向けた情報発信、営業活動の継続 ・室戸海洋深層水(株)と連携した商品開発 ・道の駅たかのとの連携			
	R3		4件(累計)	S								
	R4											
	R5											

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(%)	現状分析	
商工業	11 安芸本町商店街を中心とする地域の活性化(安芸市) 【実施主体】 ◎安芸本町商店街振興組合 安芸商工会議所 安芸市	空き店舗等を活用した新規開業 0件 (H30)	R2	3件 (R2～R5累計)	0件	D	1 商店街を中心とする地域の活性化 ・振興計画の策定 ・振興計画に基づく取組の実施 ・振興計画の進捗状況の確認及び見直し ・商い甲子園の開催	1 商店街を中心とする地域の活性化 ・安芸市中心商店街等振興計画WG及び協議会の開催(4,5月)→毎回40人程度が参加 ・安芸市中心商店街等振興計画の策定(5月) ・振興計画に基づくチーム会による協議開始(5月～) ・商店街内にキッチンカー出店(4月～) ・商店街イベント(キッチンカー&ミニマルシェ、浜弁当)開催(5/4) ・第1回軽トラマルシェ開催(6/26) ・WGメンバーによる商店街内の空き店舗等の情報収集 ・市内事業者グループによるセット商品(里帰りの食卓)の店頭及びネット販売中 ・ふるさと納税返礼品として里帰りの食卓商品を販売開始 ・商い甲子園実行委員会実施(4月～) ・ごめんなはり線20周年記念事業イベントにて商い甲子園ポスターのパネル展示を実施(7/3) ・事業経営アドバイザー事業を活用した商い甲子園実行委員会実施(7/28) ・高知県BA.5対策強化宣言により商い甲子園開催中止(8月) ・振興計画に基づく交流の場(たまり場)開始(5月～)(6回) ・高校生マルシェ開催(10/16) ・振興計画に基づく取組と周辺地域の事業者との連携イベント(浜弁当及び東洋的漫遊祭)開催(10/22,23) ・安芸・安芸桜ヶ丘高校主催のかがり火実施(10/22)	0件(11月末時点) (R3.11月末 0件) ・R4目標達成率:0% ・対前年同期比:0%	D	(成果) ・安芸市中心商店街等振興計画が策定された ・振興計画に基づき、第1回軽トラマルシェを開催(来場者500人以上)し、商店街の個店の認知度を上げることができた ・本町商店街振興組合のイベントに併せて振興計画に基づくイベントを開催することができた ・振興計画に基づく取組と周辺地域の事業者が連携した広範囲なエリアを回遊するイベントに、市内外から多くの来場者が訪れ交流人口の拡大につながった。 (課題) ・各WGチームにおいて取組実施に向けた検討会を継続するよう意欲醸成が必要 ・イベントと商店街の個店の連携が十分に図れていない ・イベント時のエリア内周遊を促す仕組みづくり (今後の方向性) ・毎月開催する「たまり場」において、各チームの情報交換や新たなメンバーの掘り起こしを行う ・安芸本町商店街スタンプラリー抽選会を振興計画に基づくイベント時に開催する等、イベントと商店街の個店の連携を促進する ・コロナ禍でのイベント開催方法について検討する	1 商店街を中心とする地域の活性化 ・振興計画に基づく取組の実施 ・振興計画の進捗状況の確認及び見直し ・商い甲子園の開催
			R3	3件 (R2～R5累計)	0件	D						
			R4	3件 (R2～R5累計)								
			R5	3件 (R2～R5累計)								
商工業	12 海の駅東洋町を拠点とした地域振興(東洋町) 【実施主体】 東洋町	売上高 1.68億円 (H30)	R2	1.71億円	1.35億円	C	1 運営体制の強化 ・経営改善、オペレーション改善に向けた取り組み 2 地域特産品を活用した加工品の開発・販売 ・地域特産品を活用した加工品の検討・開発 ・町内外へのイベント出店 ・新商品の開発・販売 3 誘客の促進 ・SNS等を活用した情報発信 ・屋外飲食スペースの拡充 ・新サービスにむけた取り組み	1 運営体制の強化 ・駅長とスタッフの面談実施(月2回) ・物販スタッフとレストランスタッフの交流実施 ・スタッフへの数値意識の醸成 2 地域特産品を活用した加工品の開発・販売 ・ゆず餡の大判焼きの販売(東部観光協議会「香香柚子グルメリ」への参画) ・お刺身定食、カツオのたたき定食など、レストラン部門で新メニューの提供開始 ・お刺身パックやマグロ丼、魚を使った寿司など、海の駅らしさを出した商品の開発・販売の開始。 3 誘客の促進 ・Instagramでの発信の強化 ・手ぶらでBBQサービスの開始 ・ハロウィンイベントの開催(10/29～10/31) ・DMV1周年記念イベントへの参画	1.21億円(11月末時点) (R3.11月末 1.00億円) ・R4目標達成率:104.3% ・対前年同期比:121.0%	A	(成果) ・お刺身定食などの新メニューの販売開始により、レストラン部門の売上げが大幅に増加している。 ・魚を仕入れて、調理するなど、スタッフのスキルアップにもつながっている。 ・駅長とスタッフが定期的に面談を実施するなどして、スタッフ間のコミュニケーションが図れるようになった。 ・店内POPの作成や鮮魚調理など、スタッフ個人のスキルを発揮し、自発的にチャレンジできる環境になってきている。 ・BBQサービスの開始により、新たな客層の獲得につながっている。	1 運営体制の強化 ・経営改善、オペレーション改善に向けた取り組み 2 地域特産品を活用した加工品の開発・販売 ・地域特産品を活用した加工品の検討・開発 ・町内外へのイベント出店 ・新商品の開発・販売 3 誘客の促進 ・SNS等を活用した情報発信・PRの継続 ・屋外飲食スペースの拡充 ・新サービスにむけた取り組み
			R3	1.72億円	1.52億円	B						
			R4	1.74億円								
			R5	1.76億円								
		来場者数 177,809人 (H30)	R2	181,382人	140,231人	C			114,659人(11月末時点) (R3.11月末 104,493人) ・R4目標達成率:93.0% ・対前年同期比:109.7%	B	(課題) ・リピーターの確保 ・広報 (今後の方向性) ・海の駅らしい商品やメニューの提供 ・地元の人にも喜ばれる商品やメニューの提供 ・海の駅でしか買えない・食べられない商品提供 ・各イベントを通して、海の駅の認知度向上・リピーターの確保につなげていく。	
			R3	183,000人	155,477人	B						
			R4	185,000人								
			R5	187,000人								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(%)	現状分析	
商工業	13 有害鳥獣等を活用したペットフードの開発と販路開拓 (東洋町) 【実施主体】 ◎(株)熊谷ファーム (株)マルキョウ	売上高 101万円 (H30)	R2	150万円	86万円	D	1 原材料の安定確保 ・町との連携による、原材料となる有害鳥獣の確保に向けた仕組みの構築 ・狩猟者への啓発	1 原材料の安定確保 ・有害鳥獣を使ったペットフードの製造を休止中	-1万円 (-1月末時点) ・R4目標達成率：-% ・対前年同期比：-%	-	(成果) ・製造販売を継続している事業者の商品に関しては、リーダーもおり、人気商品となっている。 (課題) ・ペットフードの製造再開 ・人手不足 ・原材料の確保 (今後の方向性) ・町と連携し、今後の支援のあり方について検討する。	1 原材料の安定確保 ・町との連携による、原材料となる有害鳥獣の確保に向けた仕組みの構築 ・狩猟者への啓発 2 商品開発と販路拡大 ・商談会等への参加 ・商品化の実現 ・商品改良
			R3	200万円	90万円	D	2 商品開発と販路拡大 ・商談会等への参加 ・商品化の実現 ・商品改良	2 商品開発と販路拡大 ・商談会等への参加 ・商品化の実現 ・商談会の案内を行う。				
			R4	1,000万円								
			R5	2,000万円								
商工業	14 地域食材を活用した奈半利町の特産品の開発及び販路拡大 (奈半利町) 【実施主体】 ◎(一社)なはりの郷 ◎奈半利町 ◎奈半利なんでも市加工グループ ◎NCL48 JA高知県(安芸地区)	JA加工施設(奈半利味噌)の売上高 677万円 (H30)	R2	768万円	723万円	B	1 地産外販の強化 ・商品開発及び磨き上げ ・商談会への出展	1 地産外販の強化 ・商品開発及び磨き上げ ・第51回ふるさとまつりに参加(11月)	481万円(10月末時点) (R3.10月末 432万円) ・R4目標達成率：95.4% ・対前年同期比：111.3%	B	(成果) ・11月12日(土)、ふるさとまつりに参加した。人気商品である田舎寿司と奈半利味噌を合わせてPRすることで、持参した奈半利味噌全てを販売することができた。 (課題) ・グループの高齢化、担い手の不足。 (今後の方向性) ・奈半利味噌の人気は根強く、商品が売れ残ることは少ない。しかし、グループの高齢化や担い手の不足により生産量が限られているため、新たな人材の確保を行っていく。	1 地産外販の強化 ・商品開発及び磨き上げ ・商談会への出展 2 運営体制の強化 ・関係機関との協議の実施 ・人材確保に向けた取組
			R3	816万円	787万円	B	2 運営体制の強化 ・関係機関との協議の実施	2 運営体制の強化 ・関係機関との協議(5回)				
			R4	864万円								
			R5	912万円								
	農水産加工施設の店舗売上高 (R元見込)	R2	825万円	1,256万円	S	1 地産外販の強化 ・商品開発及び磨き上げ ・商談会への出展	1 地産外販の強化 ・高知空港ビルの直営店「ICHIBA」での販売 ・まるごと高知商談会参加(6月) ・アグリコレットへの出品 ・第51回ふるさとまつりに参加(11月)	1,110万円(11月末時点) (R3.11月末 968万円) ・R4目標達成率：190.4% ・対前年同期比：114.7%	S	(成果) ・アグリコレットでの販売を継続している。 ・11月13日(日)、ふるさとまつりに参加し、販売を行った。 ・11月28日(月)、選ばれる商品づくりセミナー第3回衛生管理の基本の「き」に、奈半利のおかっのスタッフ3名が参加した。ジャムの実習と併せて食品衛生法や細菌に関する座学も受講し、衛生管理の重要性を再認識するとともに今後の事業展開を考えるきっかけにもなった。 (課題) ・いちじくジャムについて、今までは常温保存としていたが、セミナーで冷蔵保存への見直しの必要性を指摘された。 (今後の方向性) ・いちじくジャムの保存方法やレシピの見直しを行い、実践に移していく。	1 地産外販の強化 ・商品開発及び磨き上げ 2 運営体制の強化 ・関係機関との協議の実施 ・HACCPの取得に向けた取組 ・商品の品質管理の徹底	
		R3	850万円	1,436万円	S	2 運営体制の強化 ・関係機関との協議の実施 ・HACCPの取得に向けた取組	2 運営体制の強化 ・関係機関との協議(延べ11回) ・食品表示の改善 ・選ばれる商品づくりセミナー第3回衛生管理の基本の「き」への参加(11月)					
		R4	875万円									
		R5	900万円									

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(%)	現状分析	
		集出荷センター取扱高5.4億円 (R元. 7月～R2. 6月見込)	R2	5.55億円	0.45億円	D	1 地産外商の強化 ・特産品の販売促進 2 運営体制の強化 ・定例会の開催 ・理事会の開催 3 一次産業の振興 ・農作業受託事業の実施 ・不耕地解消・農産物生産事業の実施 ・施設園芸事業の実施 ・農業部門会の実施	1 地産外商の強化 ・なはりの郷による通販サイトの運営 (売上高5,510千円 (4～10月)) ・おはようごち「さんしんGO!」放送 (9月) ・ふるさと納税の再開 (10月～) 2 運営体制の強化 ・なはりの郷定例会の開催 (延べ6回) ・なはりの郷臨時会の開催 (延べ2回) 3 一次産業の振興 ・農業部門会の開催 (延べ7回) ・農作業受託事業の実施 ・不耕地解消・農産物生産事業の実施 ・施設園芸事業の実施	0.05億円 (10月末時点) (R3.10月末 0.04億円) ・R4目標達成率: 2.6% ・対前年同期比: 125.0%	D (成果) ・ふるさと納税が停止した中での運営方法について、定例会や臨時会で協議しながら、改善を進めてきた。 ・おはようごち「さんしんGO!」で、不耕地におけるイチジクの生産と、イチジクを活用した、奈半利町の特産品の開発および販路拡大の取り組みについて周知することができた。 ・いちじくの収穫のルールづくりが進み、組織内で共有することができた。 (課題) ・ふるさと納税が再開したが、全体的に納税額が少なく、集出荷センター商品 (野菜セット・じゃがいも等) の実績も少ない。 (今後の方向性) ・集出荷センターのあり方について、検討していく。	1 地産外商の強化 ・特産品の販売促進 2 運営体制の強化 ・定例会の開催 ・理事会の開催 3 一次産業の振興 ・農作業受託事業の実施 ・不耕地解消・農産物生産事業の実施 ・施設園芸事業の実施 ・農業部門会の実施	
			R3	5.7億円	0.11億円	D						
			R4	5.85億円								
			R5	764万円								
観光	15 田野町の完全天日塩を活用した産業振興及び観光への活用 (田野町) 【実施主体】 ◎田野町 民間事業者	体験施設受入人数269人 (H30)	R2	490人	64人	D	1 製塩体験施設の運営体制の整備と誘客増 ・塩づくり体験・施設見学等の受入れ ・集客のためのPR ・体験メニューのブラッシュアップ	1 製塩体験施設の運営体制の整備と誘客増 ・塩づくり体験・施設見学等の受入実施 ・体験メニューのブラッシュアップ	324人 (11月末時点) (R3.11月末 81人) ・R4目標達成率: 77.1% ・対前年同期比: 400.0%	C (成果) ・昨年は体験の受入れを一時中止 (4月～9月) していたが、今年は塩づくり体験・施設見学等の受入れを途切れることなく行っている。 ・田野屋青蜂の天日塩について、高知空港ビルの直営店「ICHIBA」での販売を令和4年3月から継続しており、徐々に知名度が上がっている。また、田野駅屋での販売も開始しており、町内に塩が流通しつつある。さらに、まるごと高知での販売に向け、調整を行っている。	1 製塩体験施設の運営体制の整備と誘客増 ・塩づくり体験・施設見学等の受入れ ・集客のためのPR ・体験メニューのブラッシュアップ	
			R3	560人	212人	D						
			R4	630人								
			R5	700人								
		塩関連での就業者数2人 (H30)	R2	2人	2人	A	2 新規就業者の育成・環境整備 ・新規就業者の確保 ・新規就業者の独立に向けた環境整備の検討、関係者間の調整 3 関連産業への波及 ・加工品開発の支援 ・販路拡大の支援等 ・新規就業者の確保	2 新規就業者の育成・環境整備 ・高知空港ビルの直営店「ICHIBA」で田野屋青蜂の天日塩の販売を継続中 (R4.3～)。 ・まるごと高知での販売決定 3 関連産業への波及 ・田野町内の事業者とコラボ商品の開発 (1商品) ・田野町内の事業者とのコラボ商品の販売 (3事業者)	4人 (11月末時点) (R3.11月末 4人) ・R4目標達成率: 100.0% ・対前年同期比: 100.0%	A (課題) ・新規就業者の定着、独立に向けた環境整備 ・新規就業者の確保 ・新たな販売先の確保 (今後の方向性) ・新規就業者を確保するために、移住フェアやHPでの広報を強化する。 ・独立した塩職人の販路拡大に取り組む。	2 新規就業者の育成・環境整備 ・新規就業者の確保 ・新規就業者の独立に向けた環境整備の検討、関係者間の調整 3 関連産業への波及 ・加工品開発の支援 ・販路拡大の支援等 ・新規就業者の確保	
			R3	4人	4人	A						
			R4	4人								
			R5	10人 (R2～R5累計)								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(%)	現状分析	
商業	16 道の駅「田野駅」の機能強化に向けた取り組み (田野町) 【実施主体】 ◎道の駅指定管理者(たの未来プロジェクト(株)) ◎田野町加工施設指定管理者(中芸食材工房)生産者組織地域団体	年間店舗売上高(1~12月) 2.7億円(H30)	R2	2.8億円	2.5億円	B	1 機能強化のための施設等整備 ・田野駅屋の機能強化に向けた施設整備等の検討 2 直販・飲食機能の強化 ・田野駅屋の取り組みについての情報共有 ・売上高の分析 3 情報発信機能の強化・交流人口の拡大 ・積極的な情報発信 4 加工品の開発・販売の強化 ・新商品開発の検討	1 機能強化のための施設等整備 ・田野駅屋の機能強化に向けた施設整備等の検討 2 直販・飲食機能の強化 ・現在の運営体制になった2019年4月以降、来場者数93万人達成(10月) 3 情報発信機能の強化・交流人口の拡大 ・地産外商公社へ田野駅屋の野菜情報提供(延べ7回) ・GW期間中、中芸地区商工会、中芸各町村、高知県東部観光協議会、地域本部が連携した臨時観光案内所の設置 4 加工品の開発・販売の強化 ・新商品開発の検討	2.2億円(10月末時点) (R3.10月末 2.0億円)	B	(成果) ・前年同期と比較して、売上高、入り込み客数とも増加傾向にある。 (課題) ・町外向けに発信している情報が少ない。 ・駐車場や店舗面積のキャパシティの限界や、周辺人口の過疎化、高齢化の影響により、現状の施設ではこれ以上の売上増加は難しい。 (今後の方向性) ・田野駅屋の機能拡充について、施設整備等の検討を進める。 ・積極的な広報、情報提供により、情報発信機能を強化する。	1 機能強化のための施設等整備 ・田野駅屋の機能強化に向けた施設整備等の検討 2 直販・飲食機能の強化 ・田野駅屋の取り組みについての情報共有 ・売上高の分析 3 情報発信機能の強化・交流人口の拡大 ・積極的な情報発信 4 加工品の開発・販売の強化 ・新商品開発の検討
			R3	2.8億円	2.4億円	B						
			R4	2.8億円								
			R5	2.8億円								
		年間入込数(1~12月) 278千人(H30)	R2	284千人	228千人	C			194千人(10月末時点) (R3.10月末 189千人)	C		
			R3	289千人	232千人	C						
			R4	295千人								
			R5	300千人								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(%)	現状分析	
商工業	17 やすき資源を生かした6次産業化事業の推進 (安田町) 【実施主体】 ◎安田町 生産者 製造販売者	地域資源を使った新商品開発 0件 (H30)	R2	1件	0件	D	1 地域資源を生かした6次産業化事業の推進 ・加工に適した作物の選定、6次産業化に取り組む事業者の掘り起こし ・新たな加工品の開発 ・新商品の販売促進 ・「安田の白い夢」の安定した生産体制の確立	1 地域資源を生かした6次産業化事業の推進 ・新規事業者の掘り起こし ・地産外産促進センターの運営に関して、高知県事業継承・引継ぎ支援センターへ相談（その後、センターが施設を視察）	0件（11月末時点） (R3.11月末 0件) ・R4目標達成率：0% ・対前年同期比：0%	D	（成果） ・高知県事業継承・引継ぎ支援センターとの連携 （課題） ・6次産業化に適した作物の選定、原材料確保など事業化に向けた仕組みづくり ・担い手の確保 ・安田の白い夢の早期の販売再開に向けた製造事業者の確保	1 地域資源を生かした6次産業化事業の推進 ・加工に適した作物の選定、6次産業化に取り組む事業者の掘り起こし ・新たな加工品の開発 ・新商品の販売促進 ・「安田の白い夢」の安定した生産体制の確立
			R3	1件	0件	D						
			R4	1件								
			R5	3件 (R2～5累計)								
		6次産業化参入事業者 0件 (H30)	R2	1件	0件	D	2 新商品の企画・開発及び外商活動 【かっぱ市】 ・地域の事業者に向けた直販所で販売する商材の掘り起こし 【ロイヤルホテル土佐】 ・ECサイトを活用した地域産品の販路拡大	2 新商品の企画・開発及び外商活動 【かっぱ市】 ・SNSを活用した情報発信 ・直販所間の商品交流の検討（11月～） 【ロイヤルホテル土佐】 ・東部観光協議会と連携した食材メニューの開発を継続する ・ECサイトリゾゲットでの県産品の販売促進	0件（11月末時点） (R3.11月末 0件) ・R4目標達成率：0% ・対前年同期比：0%	D	（今後の方向性） ・作物の選定、原材料確保など事業化に向けた仕組みづくり ・安田の白い夢の早期の販売再開に向けた取り組み	
			R3	1件	0件	D						
			R4	1件								
			R5	2件 (R2～5累計)								
18 地場産品直販所「かっぱ市」等による地域活性化 (芸西村) 【実施主体】 ◎（有）かっぱ市 大和リゾート（株） 芸西村 生産者グループ	かっぱ市売上高 1.4億円 (H30)	R2	1.48億円	1.41億円	B	1 魅力ある店舗づくりと顧客確保の取り組み 【かっぱ市】 ・顧客から要望の多い商品の取り扱いを検討 ・バーベキュー事業の再開に向けた協議 【ロイヤルホテル土佐】 ・新商品の開発及び誘客につなげるイベント等の開催	1 魅力ある店舗づくりと顧客確保の取り組み 【かっぱ市】 ・バーベキュー事業の再開に向けての協議（5/18、6/13） ・バーベキュー事業再開（7/23～） ・直販所経営力向上セミナーに参加（11/8） 【ロイヤルホテル土佐】 ・ひがしこうち誘客促進キャンペーンによる多様な企画（5/9～） ・高知県特産品キャンペーンの延長（～12/27） ・朝食会場の白玉糖生キャラメル提供開始（6月～） ・竹灯りの宵の周知（12月～）	103,456千円（11月末時点） (R3.11月末 98,015千円) ・R4目標達成率：102.8% ・対前年同期比：105.6%	A	（成果） ・かっぱ市のバーベキュー事業の継続が可能な運営方法の見直しが見られた。 ・ロイヤルホテル土佐の朝食会場の白玉糖生キャラメルが好評で宿泊者増や売店の白玉糖商品の売上げアップにつながっている。 （課題） ・直販所の安定した収入に向けて、主力の野菜が品薄になる時期の新たな取り組みが必要。 ・ロイヤルホテル土佐の人材不足 （今後の方向性） ・直販所間の商品交流の実施 ・人材確保のための取り組みの強化	1 魅力ある店舗づくりと顧客確保の取り組み 【かっぱ市】 ・直販所間の商品交流の拡大 【ロイヤルホテル土佐】 ・新商品の開発及び誘客につなげるイベント等の開催	
		R3	1.50億円	1.54億円	A							
		R4	1.51億円									
		R5	1.53億円									
2 新商品の企画・開発及び外商活動 【かっぱ市】 ・地域の事業者に向けた直販所で販売する商材の掘り起こし 【ロイヤルホテル土佐】 ・ECサイトを活用した地域産品の販路拡大												

分野	【 P (Plan) 】						【 D (Do) 】	【 C (Check) 】・【 A (Action) 】	R5【P (Plan) 】			
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	R5計画
観光	19 安芸地域の観光振興の推進 (安芸地域全域) 【実施主体】 ◎(一社)高知県東部観光協議会 安芸広域市町村圏事務組合 市町村 観光協会等 地域団体 民間事業者	観光入込客数 (1~12月) 2,181,964人 (R元)	R2	-	1,763,792人	-	1 ひがしこうち魅力創出の推進 ・着地型旅行商品の企画造成・販売促進 ・体験プログラム等観光コンテンツの開発・磨き上げ支援 ・旅行会社によるツアー造成促進のための助成 ・土佐の観光創生塾、観光地域づくり塾と連携した商品造成支援 ・旅行商品造成に向けた先進地視察等 ・周遊促進モデルコースの造成 ・「食」開発事業ワークショップ、スキルアップセミナー 2 効果的な情報発信とセールスの強化 ・HP、SNS、動画での情報発信 ・Web、SNS等を活用したプロモーション ・旅行会社へのセールス活動（訪問セールス：教育、商談会：一般） ・TV、雑誌、新聞等を活用したプロモーション ・ガイドブック等PRツールを活用した発着地でのPR ・県外イベント出展（ツーリズムEXPO等） ・県内イベント等でのPR・開催支援（観光列車、東海岸グルメまつり等） ・宿泊者向けクーポンによる誘客促進事業 ・高知東部食プロジェクトの取組支援 ・ファミツアー等の実施 3 下支えする基盤整備の推進 ・入込客数調査、WEBアンケート調査、宿泊データ分析システム、CRMアプリ等による来訪者データ収集・分析・フィードバック ・CRMアプリ会員獲得・利用促進キャンペーン等	1 ひがしこうち魅力創出の推進 ■体験プログラム等観光コンテンツの開発・磨き上げ支援 ・「東部体験型観光促進事業費補助金」募集開始(5月～) ・「土佐の観光創生塾」事業者への個別フォロー(6月～) ■着地型旅行商品の企画造成・販売促進 ・滞在型観光プラン整備計画推進のための協議(7月～) ■旅行会社によるツアー造成促進のための助成 ・各旅行会社へ助成：貸切バス助成 上限1企画30万円 ■周遊促進モデルコースの造成 ・日本遺産をテーマとするツアー商品造成支援（モニターツアー11～12月）＊観光庁「稼げる看板商品の創出事業」 ・タクシープラン(DMV、観光列車、植物スポーツ等周遊)の造成 ■「食」開発事業（3年事業の2年目） ・新グルメ「香香柚子グルメ」の販売促進、新規事業者の募集、ワークショップ(3回)やスキルアップセミナー（写真撮影）の開催 2 効果的な情報発信とセールスの強化 ■HP、SNS、動画での情報発信（通年） ■旅行会社へのセールス活動 【商談会】合計11回（一般、教育旅行、インバウンド関連等、県や旅行会社主催の商談会に参加） 【訪問セールス】個別訪問4回、県同行3回 ・TV、雑誌、新聞、ガイドブック等を活用したプロモーション ・TV CM（県内）（クーポン・観光PR・アプリ等：5月～） ・広告掲出（龍馬空港、情報誌（わお！マップ、NEXCOガイドマップ）、YouTube等SNS広告等） ・高速道路SAガイドブック配架(豊浜、龍野西、岸和田、吉備) ■イベント出展等 ・高知大丸 PR「ひがしこうちセレクト」(5/25～31 出展18店) ・観光列車のお出迎え・PRの実施(4～6月) ・四国の右下観光局主催「DMVフォトラリー」参画（7～9月） ・ツーリズムEXPOジャパン2022出展（東京：9/22～25） ・ごめんなはり線開通20周年事業受託：ひがしこうちゴトゴト周遊フォトラリーの実施（10～12月） ■宿泊者向けクーポンによる誘客促進事業 ・ひがしこうちおでかけキャンペーン実施(5月～) クーポン（宿泊者に3000円）配布：～9/30 利用：～12/31 参加施設/宿泊：39 クーポン利用施設：210 ■高知東部食プロジェクトの取組支援 ・ハッシュタグキャンペーンの実施(2～5月) ・「ぶるぶるプリを当てようキャンペーン」（10～12月） 3 下支えする基盤整備の推進 ■調査等、実態把握 ・入込客数調査、WEBアンケート、宿泊データ分析システム等による来訪者データ収集・分析、フィードバック用資料の検討 ・ロイヤルホテル土佐での宿泊者アンケート調査（10/8,9） ・県デジタルデータ活用事業：観光動態分析ツール（おでかけウォッチャー）データ収集・分析方法の研修（4回） ■CRMアプリ「ひびひ」(R3～)会員獲得・利用キャンペーン等 ・スタンラリー、DLでのポイントプレゼント（3月～継続） ・イベントでのPR・会員募集ブース出展（3回） ・アプリ案内リーフレット作成（9月） ■各種会議、研修会の参加 ・理事会(3回)、総会(2回)、観光担当課長会議（2回） ・四国南東部広域観光推進協議会（設立総会）、等 ・県草花ガイド研修の受講案内・職員の受講（6～7月） ・県インバウンド関連研修の職員の受講（7、9月）	1,405,310人（9月末時点） (R3.9月末 1,304,807人) ・R4目標達成率：85.9% ・対前年同期比：107.7%	B	1 ひがしこうち魅力創出の推進 (成果) ・「東部体験型観光促進事業費補助金」交付：3件(11月末時点) ・「土佐の観光創生塾」商品造成数：12件（11月末時点） ・旅行会社への貸切バス助成：34件(11月末時点) ・「香香柚子グルメ」販売実績：4,725食44,751千円(～8月末)、16店舗中、新規7店（11月末時点） (課題と今後の方向性) ・体験プログラム等、造成された商品のPR強化（HP掲載を検討） ・「らんまん」に合わせたタクシープランの販売開始 ・「香香柚子グルメ」のPR強化 2 効果的な情報発信とセールスの強化 (成果) ・HP PV数：344,851 ユーザー数：28,421（4～9月） ・Instagramフォロワー数：4月～9月で355人増（9月末時点：2,283人） ・教育旅行受入：18校＊過去最多（陶芸、マリンスポーツ体験、ジオ環境教育、防災教育） R5:8校決定 仮予約：2校（11月末） ・「ひがしこうちセレクト」売上：約36万円 ・ひがしこうちおでかけCP（9月末時点）クーポン配布率：91.27% 利用状況：70,952枚、35,476千円分 ＊宿泊施設で高単価プランの販売開始 ・おらんくの自慢の一品ハッシュタグCP応募：51件 (課題と今後の方向性) ・SNSフォロワー数等獲得のため、運用方法の見直し、HP掲載情報の磨き上げ	1 ひがしこうち魅力創出の推進 ・着地型旅行商品や体験プログラム等の造成・販売促進 ・旅行会社のバス造成 ・周遊促進モデルコースの造成 タクシープラン本格稼働 ・「食」開発（3年目）磨き上げ、PR 自動化検討（香香柚子グルメ） 2 効果的な情報発信とセールスの強化 ・HP、SNS、動画等を活用した情報発信 ・ガイドブックの作成とPR ・TV、雑誌、SNS等を活用したプロモーション ・旅行会社へのセールス活動 ・県内外イベント出展（ツーリズムEXPO、東海岸グルメまつり等） ・高知東部食プロジェクトの取組支援「春らんまんキャンペーン」メニュー開発 ・ファミツアー等の実施 3 下支えする基盤整備の推進 ・東部への周遊拡大に向けたデジタルデータ実証事業の実施 ・各種調査による来訪者分析と関係者へのフィードバック ・CRMアプリ活用推進（会員獲得のための利用促進キャンペーン等） ・観光人材育成研修 ・理事会、総会の開催 ・担当課長会の開催（広域観光振興計画の進捗管理） ・四国南東部広域観光連絡協議会による新たな周遊拡大に向けた取組
			R3	-	1,783,594人	-						
			R4	2,181,964人								
			R5	2,225,601人								
		圏内宿泊者数 (1~12月) 154,542人 (R元)	R2	-	93,572人	-						
			R3	-	92,864人	-						
			R4	154,542人								
			R5	157,632人								
		圏内観光消費額 (1~12月) 3,526,972千円 (R元)	R2	-	2,611,794千円	-						
			R3	-	2,583,855千円	-						
R4	3,526,971千円											
R5	3,667,199千円											
		※各KPIの対前年同期比が上がっている要因として考えられること ▶昨年度はGW期間中等の多客期を含めて国内で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令されている地域（首都圏等）があり、同地域からの移動が制限されていたが、今年度はコロナ禍による行動制限がなく、県民割等も休止することなく実施されたことが要因の1つと考えられる。 ▶本年5/9から実施した「ひがしこうちおでかけキャンペーン」（対象施設宿泊者へ地域内の観光施設や物販・飲食店で利用できる3,000円分クーポン配布）が好影響をもたらしていると考えられる。										

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(%)	現状分析	
観光	20 日本遺産を活用した中芸地域の活性化 (奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村) 【実施主体】 ◎中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会 奈半利町 田野町 安田町 北川村 馬路村 中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会	中芸地域主要施設訪問者数 537,560人 (H30)	R2	540,000人	437,812人	C	1 日本遺産を活用した地域の活性化及び交流人口の拡大 ・次期地域活性化計画の策定 ・戦略会議等による自走に向けた方向性（戦略）の検討 ・日本遺産ガイド養成講座の実施 ・「ゆずフェス」の開催 ・ゆず収穫体験ツアーの実施 ・ゆず林鉄EXPO2023開催 ・拠点施設に関する検討 2 森林鉄道施設の保存策の検討 ・重要文化財旧魚梁瀬森林鉄道施設保存管理活用推進委員会における保存策の検討	1 日本遺産を活用した地域の活性化及び交流人口の拡大 ・日本遺産中芸ゆずと森林鉄道ガイド会設立 (5/1) ⇒5/20高知県観光ガイド連絡協議会入会 ・部会の開催 (8/23、10/18、11/15、12/19) ⇒部会長候補の選出、次期地域活性化計画策定に係るWS ・幹事会の開催 (5/23、9/29、12/27) ⇒補正予算、部会長の選出 ・総会の開催 (5/30) ⇒規約改正、補正予算、地域プロデューサーの選出 ・次期地域活性化計画策定をNPO法人地域活性化計画に委託 (6/1) ・戦略会議の開催 (7/4、8/23、10/7、11/15、12/21) ⇒日本遺産で稼ぐをテーマに検討を進める ・中芸で稼ぐをテーマに勉強会開催を計画(地域の頑張る人づくり事業費補助金活用) ・集活なかやま2階に日本遺産の臨時の展示施設を整備中 ・住民向け無料ガイドの実施 ⇒5/28奈半利町：2名、6/25北川村：9名、7/16馬路村：11名、8/27安田町：10名、9/24田野町：10名 ・日本遺産ガイド養成講座の開催 (6/25、7/16、8/27、9/24、10/22) ⇒中芸5町村で実施済。当初受講生12名 最終修了者6名(うちガイド会新規入会2名) ・「第8回ゆずフェス」の開催 (7/24～8/31) ⇒15プログラム策定 来客数49名 ・「第9回ゆずフェス」の開催 ⇒18プログラム策定 来客数187名 ・観光庁「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業」を活用したアドベンチャーツアー（Eバイク使用）造成 ⇒モニターツアーの実施（11/7～10 5名参加、12/12～15 7名参加） 2 森林鉄道施設保存策の検討 ・重要文化財旧魚梁瀬森林鉄道施設保存管理活用推進委員会の事務局変更（田野町⇒奈半利町 4/1）	327,814人（10月末時点） (R3.10月末 282,770人) ・R4目標達成率：104.1% ・対前年同期比：115.9%	A	（成果） ・戦略会議において、地域商社の設立が自走に向けた方向性として示された。 ・日本遺産ガイドについて、高知県観光ガイド連絡協議会HPで活動をPRできている。 ・ガイド養成講座の開催による受入れ体制の充実が図られており、今年度も新たに6名が講座を修了し、うちガイドとして2名が新たに登録した。 ・観光庁事業を活用し、Eバイクを使って日本遺産の遺構等を巡るツアーを造成しており、モニターツアーを実施した。 （課題） ・ゆずフェスの日程について、平日開催が第8回は多いため、集客に苦労している。 ・Eバイクを使ったツアー造成について、地域との調整などが難航している。 ・次期地域活性化計画の策定のための住民WSへの参加者が少ない。 ・事務局体制が不十分な状況であり、事業の進捗が遅れている。 （今後の方向性） ・地域住民の参画による再認定に向けた次期地域活性化計画の策定 ・モニターツアーの商品化とガイド人材の育成による受入れ体制のさらなる強化 ・訴求力あるイベントの実施及び情報発信の強化による認知度向上	1 日本遺産を活用した地域の活性化及び交流人口の拡大 ・次期地域活性化計画の策定 ・日本遺産ガイド養成講座の実施 ・「ゆずフェス」の開催 ・拠点施設に関する検討 ・DMOもしくは地域商社設立に向けた準備 ・体験ツアーの充実と旅行社社への売り込み ・全国林鉄サミット&フェスティバル開催 2 森林鉄道施設の保存策の検討 ・重要文化財旧魚梁瀬森林鉄道施設保存管理活用推進委員会における保存策の検討
			R3	540,000人	478,128人	B						
			R4	540,000人								
			R5	550,000人								
	21 室戸市の観光資源を生かした交流人口の拡大・地域振興 (室戸市) 【実施主体】 ◎室戸市 ◎（一社）室戸市観光協会 室戸市ジオパーク推進協議会 (株)日本ドルフィンセンター（一社）うみ路 NPO法人ウミガメ協議会 土佐備長炭元炭玄民間事業者	室戸市主要施設訪問者数(1～12月) 805千人 (H30)	R2	820千人	506千人	D	1 周遊型・滞在型観光の強化 ・デジタル(AR)を活用した周遊体制づくり ・室戸市ツイッター、Instagram、YouTubeを用いた情報発信 ・各施設の情報のほか、シレストむるとのランニングステーション、拠点施設を結ぶシェアサイクルなどの情報発信 ・ジオパーク担当の地域おこし協力隊募集・雇用 ・各施設を周遊する教育旅行の受入準備 ・市内、地域施設間連携に向けた協議の場の設置	1 周遊型・滞在型観光の強化 ・室戸市ツイッター、Instagram、YouTubeを用いた情報発信 ・ジオパーク担当の地域おこし協力隊の募集 ⇒11月採用内定者が辞退。 ・9月12日～、ARスタンプラリー「イルカと室戸と私」スタート。 ・11月末時点で、今年度の教育旅行の受け入れを11校実施。 ・室戸ラプンツェルフェスティバル(7/30,31)、ふるさと室戸祭り花火大会(9/24)、第43回灯台まつり(11/5)の開催	381,859人（9月末時点） (R3.9月末 339,565人) ・R4目標達成率：62.1% ・対前年同期比：112.5%	D	（成果） ・情報発信を随時行うことができています。 ・修学旅行の受け入れを随時行うことができています。 ・AR活用事業のスタート。 ・各種イベントを開催することができています。 （課題） ・地域おこし協力隊が確保できていない。 ・8月末で地域おこし協力隊が1名退職 ・AR活用事業の利用者数が想定より少ない。 ・周遊観光体制の構築 （今後の方向性） ・地域おこし協力隊の募集の継続 ・ARを活用した周遊体制づくりの着実な実施及び利用者拡大に向けた取組の実施 ・周遊観光体制の構築に向けた取組の検討	1 周遊型・滞在型観光の強化 ・室戸市ツイッター、Instagram、YouTubeを用いた情報発信 ・ジオパーク担当の地域おこし協力隊募集・雇用 ・各施設を周遊する教育旅行の受入準備 ・市内、地域施設間連携に向けた協議の場の設置 ・ひがんそうの改修・再活用に向けた取組の実施
			R3	820千人	466千人	D						
			R4	820千人								
			R5	850千人								
	室戸世界ジオパークセンター来館者数 87,318人 (H30)	R2	90,000人	41,692人	D	2 誘客促進（室戸世界ジオパークセンター） ・日本ジオパーク委員会による翌年の世界審査に向けた事前調査への対応 ・企画イベントの検討 ・ジオパーク推進協議会ECサイトの商品数の増に向けた市内事業者への働きかけ、記事内容の充実化によるジオパーク認知度向上 ・ジオパークガイド養成講座の実施による、ガイド確保およびジオパーク活動の周知	2 誘客促進（室戸世界ジオパークセンター） ・ジオパーク推進協議会総会開催 (6/2) ・日本ジオパーク事前調査に向けた対応準備 ⇒説明会の開催 (6/10) ・日本ジオパーク事前調査への対応 (8/4～7) ・佐喜浜ハイキング (6/26、11/19)、ジオパークフォトコンテスト（例年実施）、薄片教室 (8/11)、企画展「ジオ多様性と私たちの生活」(9/25～10/30)の開催	41,696人（11月末時点） (R3.11月末 39,993人) ・R4目標達成率：69.5% ・対前年同期比：104.3%	D	（成果） ・日本ジオパーク事前調査に向けて関係者を集めて説明会を行ったことにより、方向性や各自の対応等を明確にすることができ、スムーズな受け入れにつながった。 ・各種イベントの企画・開催 （課題） ・来年の世界審査へに向けた対応 ・ジオガイド養成講座の未実施 （今後の方向性） ・来年の世界審査へに向けた関係課・関係者への協力依頼 ・ジオガイド養成講座の開催	2 誘客促進（室戸世界ジオパークセンター） ・ユネスコ世界ジオパークの審査への対応 ・室戸世界ジオパークセンターのリニューアル ・企画イベントの検討 ・ジオパーク推進協議会ECサイト「室戸びと、進む。」の商品数の増に向けた市内事業者への働きかけ、記事内容の充実化によるジオパーク認知度向上 ・ジオパークガイド養成講座の実施による、ガイド確保およびジオパーク活動の周知 ・室戸世界ジオパークセンターの誘客促進に向けた関係者間協議の実施	
		R3	90,000人	55,065人	D							
		R4	90,000人									
		R5	90,000人									

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	室戸ドルフィンセンター 来場者数 27,693人 (H30)		R2	30,000人	15,652人	D	2 誘客促進（海の駅とろむ） ・地元食材を用いたキッチントレーラー提供メニューの検討、確定後のGW頃の提供開始（室戸ドルフィンセンター） ・体験プログラムの磨き上げ（バナナボート、海上アスレチック等） ・飲食、観光、宿泊施設との連携 ・海の駅とろむ飲食・物販施設「ちばつま八」の改修・再開	2 誘客促進（海の駅とろむ） ・地元食材を用いたキッチントレーラー提供メニューの検討 ・企画「4.19（飼育の日）リアルトレーナー体験」実施（4/17） ・体験プログラムの磨き上げ（海上アスレチック、バナナボート）及び実施（7/16～） ・発達障害児を対象としたプログラム実現に向けたクラウドファンディングを実施 ・期間限定プログラム「イルカとキャッチボール」を実施(10/1～10/31) ・室戸市応援キャンペーンを実施(11/1～3/31) ・旧ちばつま八の改修及びインスタントハウス設置に係る補正予算可決（5月臨時議会） ・海の駅とろむの指定管理者が決定（炭玄・6月議会） ・海の駅とろむ飲食体験施設「室玄」オープン（8/25～）	13,363人（11月末時点） (R3.11月末 9,781人)	D	（成果） ・クラウドファンディングで100万円の資金確保 ・海上アスレチック、バナナボート体験を予定通り実施 ・室戸市応援キャンペーンを通じて飲食、観光、宿泊施設との連携ができています。 ・とろむ改修等に係る予算が可決され、レストランをオープンすることができた。 （課題） ・室戸ドルフィンセンターについて、海の駅とろむの飲食体験施設が再開となったが、集客増につなげられていない。 ・海の駅とろむについて、飲食体験施設は再開となったが、その他体験事業については実施時期が遅延している。（本格実施はR4年度末～） （今後の方向性） ・集客増に向けた周辺施設との連携強化及び新たなイベントの検討。 ・海の駅とろむの本格的な事業再開を早急に進め、再開に係る周知を広く行う。	2 誘客促進（海の駅とろむ） 【室戸ドルフィンセンター】 ・体験プログラムの磨き上げ（バナナボート、海上アスレチック等） ・飲食、観光、宿泊施設との連携 ・誘客促進に向けた関係者間協議の実施 【飲食体験施設】 ・情報発信 ・誘客促進に向けた関係者間協議の実施
			R3	30,000人	13,024人	D						
			R4	30,000人								
			R5	30,000人								
	むろと廃校水族館来館者数 168,333人 (H30)		R2	135,000人	68,776人	D	2 誘客促進（むろと廃校水族館） ・Twitterを活用した情報発信	2 誘客促進（むろと廃校水族館） ・Twitterを活用した情報発信 ・DMVの乗り入れ開始（7/2～） ・修学旅行生や各種視察の受け入れ ・小学4～6年生を対象とした宿泊企画を8/3～8/5に開催。（20名程度の募集に対し応募は160名程度あり。） ・来場者数累計50万人達成記念のプレゼント企画「99kgの壁」実施。 ・ツーリズムEXPOジャパン2022において出張プリジを出店。 ・高知県芸術祭主催で「図工と音楽会in廃校水族館」を開催。その際、国立室戸青少年自然の家と連携・協力協定を締結。（11/13）	67,444人（11月末時点） (R3.11月末 51,505人)	C	（成果） 1日1回程度、様々な情報発信ができています。 ・一般客以外にも教育旅行や視察受け入れなどにより、来場者数を伸ばすことができています。 ・来場者数累計50万人達成（8/15） （課題） ・さらなる誘客に向けた施設の充実、イベントの実施 ・周辺施設との連携 （今後の方向性） ・情報発信の継続 ・各種イベントの実施	2 誘客促進（むろと廃校水族館） ・Twitterを活用した情報発信 ・イベント等の実施 ・周辺施設との連携 ・誘客促進等に向けた関係者間協議の実施
			R3	135,000人	72,414人	D						
			R4	135,000人								
			R5	121,200人								
	MUROTO base55（旧ライダーズイン室戸）利用者数 -		R2	5,656人	1,785人	D	2 誘客促進（MUROTObase55（旧ライダーズイン室戸）） ・SNSを活用した情報発信 ・市内事業者と連携した取組の実施 ・備長炭アクセサリーづくり、藍パンづくり、藍染めマスクづくり体験など	2 誘客促進（MUROTObase55（旧ライダーズイン室戸）） ・テレビ、Instagram、新聞、YouTubeなど様々な媒体での情報発信 ・市内事業者（Riddim Blue）との連携（藍染めマスクづくり体験等） ・備長炭アクセサリー作り体験の実施 ・破損設備の改修及び夜のイルミネーション強化 ・雨天時のBBQ実施に関する検討 ・海の駅とろむ飲食体験施設「室玄」との連携した宿泊プランの造成	3,649人（11月末時点） (R3.11月末 2,516人)	B	（成果） ・情報発信の継続及びYouTuberとコラボした施設紹介動画など工夫を凝らした情報発信ができ、来場者数を伸ばすことができています。 ・年度当初破損した設備の改修・強化 ・海の駅とろむ飲食体験施設「室玄」との連携 （課題） ・滞在時のアクティビティの強化 ・BBQ実施における抜本的な雨天対策 （今後の方向性） ・集客のための情報発信の継続 ・雨天時でもBBQを行うための大屋根の設置検討	2 誘客促進（MUROTObase55（旧ライダーズイン室戸）） ・SNSを活用した情報発信 ・市内事業者との連携 ・誘客促進に向けた関係者間協議の実施
			R3	5,656人	3,413人	D						
			R4	5,656人								
R5			6,000人									

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(%)	現状分析	
観光	22 岩崎弥太郎や地域食材等を活用した観光の推進 (安芸市) 【実施主体】 ◎安芸市 ◎(一社)安芸市観光協会 安芸漁協 伊尾木あなご保存会 内原野陶芸館 JA高知県(安芸地区) 安芸市観光ボランティアガイドの会 廓中ふるさと館 メリーガーデン はたやま琴楽 安芸「釜あげちりめん丼」 楽会 道の駅大山 安芸商工会議所 「はばたけ彌太郎」安芸市推進委員会	市内年間観光客数 278,442人 (H30)	R2	280,000人	129,012人	D	1 岩崎弥太郎を生かした安芸市観光の活性化 ・観光情報センターを拠点とした市内周遊の推進 (NHK連続テレビ小説を生かした取組) 2 観光資源の魅力向上 ・道の駅大山周辺の観光振興に向けた取組実施 ・手づくり登り窯フェスタ開催 ・安芸駅ちばさん市場レイアウト変更 ・NHK連続テレビ小説を生かした取組検討	1 岩崎弥太郎を生かした安芸市観光の活性化 ・高知県博覧会受入環境等整備支援事業費補助金(草花ガイド養成支援事業)申請 ・「はばたけ彌太郎」安芸市推進委員会実施(5/30) ・土佐よさこいツアーワーク開催(7/2) ・安芸市観光ボランティア等の草花ガイド養成研修受講(9月～) 2 観光資源の魅力向上 ・道の駅大山改修工事(R5夏頃リニューアルオープン予定) ・道の駅大山周辺観光振興計画(R5.3月策定予定) ・手づくり登り窯フェスタ及びつじ祭り開催(4/10,17,24) ・あなごまつり開催(5/3,4) ・あなご保存会による伊尾木洞周辺地域での試行販売実施 ・PR動画(観光部門)をYouTubeに投稿	121,560人(10月末時点) (R3.10月末 68,094人) ・R4目標達成率:80.1% ・対前年同期比:178.5%	C	(成果) ・市観光ボランティア及びあなご保存会等観光施設関係者の研修会の受講等により、らんまんに向けた意識の醸成につながった (課題) ・市内周遊観光の促進及び観光客満足度の向上 ・岩崎弥太郎を生かした取組の促進 ・伊尾木洞観光案内所周辺での試行販売の売上げ伸び悩み (今後の方向性) ・既存イベント内容等の磨き上げ ・三菱商事との連携強化 ・伊尾木洞観光案内所周辺での試行販売への継続支援 ・道の駅大山周辺の観光振興への支援	1 岩崎弥太郎を生かした安芸市観光の活性化 ・観光情報センターを拠点とした市内周遊の推進 (NHK連続テレビ小説を生かした取組等) 2 観光資源の魅力向上 ・道の駅大山周辺の観光振興に向けた取組実施 ・手づくり登り窯フェスタ開催 ・安芸駅ちばさん市場レイアウト変更 ・NHK連続テレビ小説を生かした取組実施
			R3	260,000人	128,510人	D						
			R4	260,000人								
			R5	300,000人								
		市内年間宿泊者数 25,726人 (H30)	R2	25,900人	20,481人	C	3 地域食材等を活用した誘客の推進 ・ちりめん丼楽会によるイベントへの出店等PR活動の実施 ・ナス料理等提供店と連携したスタンプラリーの開催 ・道の駅大山の改修後に提供する地元食材を活用したメニューの開発	3 地域食材等を活用した誘客の推進 ・安芸「釜あげちりめん丼」楽会の土佐のおきやく2022出店(5/14,15) ・PR動画(じゃこ部門)をYouTubeに投稿 ・テレビ局へのじゃこPR動画素材提供(日本テレビ「バゲット」)(5月) ・観光列車乗客お出迎え実施(4月～6月 各金曜日) ・第10回グルメまつり&鉄道の日及び第8回ご当地じゃこサミットへの安芸「釜あげちりめん丼」楽会及びひなすマダム出店(10/8,9) ・安芸「釜あげちりめん丼」楽会撮影協力(RKC)(10月) ・消費拡大委員会による安芸市産の野菜等の詰め合わせセット販売企画の実施(6月) ・消費拡大委員会HPでナス料理提供店18店舗掲載中 ・テレビ局によるナスPRへの撮影協力(テレビ朝日「林修のレッスン!今でしょ」)(5月) ・ごめんなはり線20周年記念事業イベントへのひなすマダム出店(7/3) ・なすスタンプラリー開催(11/17～R5.2/17) ・安芸うまいもん開発アイデアコンテスト実施(11/13)	17,787人(10月末時点) (R3.10月末 10,328人) ・R4目標達成率:117.7% ・対前年同期比:172.2%	S	(成果) ・各種イベントへの安芸「釜あげちりめん丼」楽会の出店回数の増加によりちりめん丼販売食数は回復傾向にある (課題) ・ちりめん丼販売食数の伸び悩み (今後の方向性) ・安芸「釜あげちりめん丼」楽会のイベント出店等PR活動への継続支援	3 地域食材等を活用した誘客の推進 ・ちりめん丼楽会によるイベントへの出店等PR活動の実施 ・ナスを活用したイベントの開催
			R3	25,900人	21,349人	C						
			R4	25,900人								
			R5	26,500人								
		ちりめん丼販売食数 46,872食 (H30)	R2	47,000食	26,522食	D	3 地域食材等を活用した誘客の推進 ・ちりめん丼楽会によるイベントへの出店等PR活動の実施 ・ナス料理等提供店と連携したスタンプラリーの開催 ・道の駅大山の改修後に提供する地元食材を活用したメニューの開発	3 地域食材等を活用した誘客の推進 ・安芸「釜あげちりめん丼」楽会の土佐のおきやく2022出店(5/14,15) ・PR動画(じゃこ部門)をYouTubeに投稿 ・テレビ局へのじゃこPR動画素材提供(日本テレビ「バゲット」)(5月) ・観光列車乗客お出迎え実施(4月～6月 各金曜日) ・第10回グルメまつり&鉄道の日及び第8回ご当地じゃこサミットへの安芸「釜あげちりめん丼」楽会及びひなすマダム出店(10/8,9) ・安芸「釜あげちりめん丼」楽会撮影協力(RKC)(10月) ・消費拡大委員会による安芸市産の野菜等の詰め合わせセット販売企画の実施(6月) ・消費拡大委員会HPでナス料理提供店18店舗掲載中 ・テレビ局によるナスPRへの撮影協力(テレビ朝日「林修のレッスン!今でしょ」)(5月) ・ごめんなはり線20周年記念事業イベントへのひなすマダム出店(7/3) ・なすスタンプラリー開催(11/17～R5.2/17) ・安芸うまいもん開発アイデアコンテスト実施(11/13)	19,668食(10月末時点) (R3.10月末 14,471食) ・R4目標達成率:71.7% ・対前年同期比:135.9%	C	(成果) ・各種イベントへの安芸「釜あげちりめん丼」楽会の出店回数の増加によりちりめん丼販売食数は回復傾向にある (課題) ・ちりめん丼販売食数の伸び悩み (今後の方向性) ・安芸「釜あげちりめん丼」楽会のイベント出店等PR活動への継続支援	3 地域食材等を活用した誘客の推進 ・ちりめん丼楽会によるイベントへの出店等PR活動の実施 ・ナスを活用したイベントの開催
			R3	47,000食	22,785食	D						
			R4	47,000食								
			R5	50,000食								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(%)	現状分析	
観光	23 東洋町における体験型・滞在型観光の推進 (室戸市、東洋町) 【実施主体】 ◎ (一社) 東洋町観光振興協会 ◎ 東洋町 地元マリンスポーツ等関係事業者 宿泊事業者 阿佐海岸鉄道(株) 東洋町商工会 NPO法人ウォーターズ・リバイタルプロジェクト (一社) 高知県東部観光協議会 室戸市	体験者数 465人 (H30)	R2	3,500人	2,969人	C	1 (一社) 東洋町観光振興協会の体制強化 ・地域おこし協力隊の観光創生塾の受講 ・理事定例会の実施 ・運営体制の検討(事務局長の設置) 2 受け入れ体制の強化 ・既存体験プログラムの見直し・磨き上げ ・新規体験プログラムの造成 ・ビーチホッピングの開催 ・清流の里野根川オートキャンプ場の運営 3 DMVを活用した観光振興 ・受け入れ体制の強化 ・シェアサイクルサービスPIPPAの活用促進 ・甲浦駅の活用検討 4 野根川を活用した観光振興 ・清流の里野根川オートキャンプ場の運営 ・SNS等を活用したPR	1 (一社) 東洋町観光振興協会の体制強化 ・事務局長の設置 ・地域おこし協力隊1名の着任 2 受け入れ体制の強化 ・野根川オートキャンプ場オープン(4/23) ・ビーチホッピング広報活動の強化 ・ビーチホッピングの開催(7/16~8/30) ・土佐くろしお鉄道企画列車(ビーチホッピング)(8/17、8/24) ・南四国アイランド活性化協議会で海陽町との連携について検討 3 DMVを活用した観光振興 ・DMV勉強会の開催 ・阿佐海岸鉄道主催DMVトレジャーハンティングの開催について検討 ・東洋町クリスマスマーケット(DMV1周年記念イベント)の開催について検討 4 野根川を活用した観光振興 ・野根川オートキャンプ場オープン(4/23) ・南四国アイランド活性化協議会の開催(7/19) ・キャンプ場を利用した音楽イベントの企画・開催	5,407人(11月末時点) (R3.11月末 2,579人) ・R4目標達成率: 202.8% ・対前年同期比: 209.7%	S	(成果) ・野根川オートキャンプ場オープンにより、キャンプ場周辺の観光資源の掘り起こしのきっかけができた。 ・ビーチホッピングの定着 ・近隣の自治体や関係団体と連携した取り組みに向けて検討することができた。 (課題) ・広報活動の強化 ・DMVを活用した地域振興 ・関係団体・周辺自治体との連携 (今後の方向性) ・DMVをきっかけに来町した観光客の受け入れ体制の充実 ・地域の魅力の磨き上げ、掘り起こしを行いながら、PRしていくことで東洋町の認知度を上げる。	1 (一社) 東洋町観光振興協会の体制強化 ・地域おこし協力隊の観光創生塾の受講 ・理事定例会の実施 ・運営体制の検討(事務局長の設置) 2 受け入れ体制の強化 ・既存体験プログラムの見直し・磨き上げ ・新規体験プログラムの造成 ・ビーチホッピングの開催 ・清流の里野根川オートキャンプ場の運営 ・PR活動の強化 3 DMVを活用した観光振興 ・受け入れ体制の強化 ・シェアサイクルサービスPIPPAの活用促進 ・甲浦駅の活用検討 ・近隣市町村との連携 ・地域資源の掘り起こし 4 野根川を活用した観光振興 ・清流の里野根川オートキャンプ場の運営 ・SNS等を活用したPR ・地域資源の掘り起こし
			R3	3,500人	2,591人	C						
			R4	4,000人								
			R5	5,000人								
		東洋町主要施設訪問者数 (1~12月) 231,780人 (H30)	R2	245,000人	206,830人	C	1 (一社) 東洋町観光振興協会の体制強化 ・地域おこし協力隊の観光創生塾の受講 ・理事定例会の実施 ・運営体制の検討(事務局長の設置) 2 受け入れ体制の強化 ・既存体験プログラムの見直し・磨き上げ ・新規体験プログラムの造成 ・ビーチホッピングの開催 ・清流の里野根川オートキャンプ場の運営 ・PR活動の強化 3 DMVを活用した観光振興 ・受け入れ体制の強化 ・シェアサイクルサービスPIPPAの活用促進 ・甲浦駅の活用検討 ・近隣市町村との連携 ・地域資源の掘り起こし 4 野根川を活用した観光振興 ・清流の里野根川オートキャンプ場の運営 ・SNS等を活用したPR ・地域資源の掘り起こし	1 (一社) 東洋町観光振興協会の体制強化 ・事務局長の設置 ・地域おこし協力隊1名の着任 2 受け入れ体制の強化 ・野根川オートキャンプ場オープン(4/23) ・ビーチホッピング広報活動の強化 ・ビーチホッピングの開催(7/16~8/30) ・土佐くろしお鉄道企画列車(ビーチホッピング)(8/17、8/24) ・南四国アイランド活性化協議会で海陽町との連携について検討 3 DMVを活用した観光振興 ・DMV勉強会の開催 ・阿佐海岸鉄道主催DMVトレジャーハンティングの開催について検討 ・東洋町クリスマスマーケット(DMV1周年記念イベント)の開催について検討 4 野根川を活用した観光振興 ・野根川オートキャンプ場オープン(4/23) ・南四国アイランド活性化協議会の開催(7/19) ・キャンプ場を利用した音楽イベントの企画・開催	251,762人(11月末時点) (R3.11月末 220,844人) ・R4目標達成率: 110.7% ・対前年同期比: 114.0%	S	(成果) ・野根川オートキャンプ場オープンにより、キャンプ場周辺の観光資源の掘り起こしのきっかけができた。 ・ビーチホッピングの定着 ・近隣の自治体や関係団体と連携した取り組みに向けて検討することができた。 (課題) ・広報活動の強化 ・DMVを活用した地域振興 ・関係団体・周辺自治体との連携 (今後の方向性) ・DMVをきっかけに来町した観光客の受け入れ体制の充実 ・地域の魅力の磨き上げ、掘り起こしを行いながら、PRしていくことで東洋町の認知度を上げる。	1 (一社) 東洋町観光振興協会の体制強化 ・地域おこし協力隊の観光創生塾の受講 ・理事定例会の実施 ・運営体制の検討(事務局長の設置) 2 受け入れ体制の強化 ・既存体験プログラムの見直し・磨き上げ ・新規体験プログラムの造成 ・ビーチホッピングの開催 ・清流の里野根川オートキャンプ場の運営 ・PR活動の強化 3 DMVを活用した観光振興 ・受け入れ体制の強化 ・シェアサイクルサービスPIPPAの活用促進 ・甲浦駅の活用検討 ・近隣市町村との連携 ・地域資源の掘り起こし 4 野根川を活用した観光振興 ・清流の里野根川オートキャンプ場の運営 ・SNS等を活用したPR ・地域資源の掘り起こし
			R3	246,000人	238,763人	B						
			R4	248,000人								
			R5	250,000人								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】			
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画		
									R4到達目標に対する現状	達成度(%)	現状分析			
観光	24 奈半利町の観光施設の誘客強化による交流人口の拡大 (奈半利町) 【実施主体】 ◎(一社)なはりの郷 ◎奈半利町 藤村製糸(株)	記念館来館者数 (1~12月) 1,000人 (H30)	R2	1,125人	626人	D	1 藤村製糸記念館の活用拡大 ・町並みガイド等での活用拡大 ・なはり浦の会との連携 ・記念館を活用したイベントの開催	1 藤村製糸記念館の活用拡大 ・なはり古民家・廃校 ART&LIVE 2022の開催を決定。なはり浦の会と連携し準備作業を行う。 ・なはり古民家・廃校 ART&LIVE 2022を開催(10月29日~11月13日)。	1,027人(11月末時点) (R3.11月末 283人) ・R4目標達成率:81.5% ・対前年同期比:362.9%	C	(成果) ・なはり古民家・廃校 ART&LIVE 2022の期間中、藤村製糸記念館への来館者数は約500名を記録し、ほかのアートイベント会場も盛況だった。 (課題) ・11月12日(土)、奈半利駅前にてLiveイベントが開催されたが、来場者数が伸び悩んだ。 (今後の方向性) ・来年度は、なはり浦の会と連携しながら、広報の見直しなどを検討していく。	1 藤村製糸記念館の活用拡大 ・町並みガイド等での活用拡大 ・なはり浦の会との連携 ・記念館を活用したイベントの開催		
			R3	1,250人	411人	D								
			R4	1,375人										
			R5	1,500人										
	観光	25 安田川アオどる清流キャンプ場の再整備による交流人口の拡大と地域の活性化 (安田町) 【実施主体】 ◎安田町	キャンプ場利用者数 2,527人 (H30)	R2	3,000人	53人	-	1 キャンプ場の再整備による磨き上げ ・新規サービスの検討 ・スタッフの人材育成 2 利用者数アップに向けた仕組みづくり ・定期的なイベントの企画及び実施 ・SNS等を活用したPR活動 ・周辺施設との連携実施 ・地域食材の提供	2 海浜センターの機能強化、体験型観光の推進 ・地域観光振興交付金の活用により整備したキャンプサイトのプレスリリース(4/25) ・キャンプサイト運営開始(5月) ・さんごの移植会を実施(9月) ・教育旅行の受入394名(4月~11月) 3 ミヶ岡生活体験学校の体験型観光の推進 ・体験及び交流イベントの強化、情報発信	2 海浜センターの機能強化、体験型観光の推進 ・地域観光振興交付金の活用により整備したキャンプサイトのプレスリリース(4/25) ・キャンプサイト運営開始(5月) ・さんごの移植会を実施(9月) ・教育旅行の受入394名(4月~11月) 3 ミヶ岡生活体験学校の体験型観光の推進 ・米ヶ岡生活体験学校にて、なはり里山フェスを実施(6月) ・なはり里山フェスを実施(11月)	664人(11月末時点) (R3.11月末 307人) ・R4目標達成率:60.7% ・対前年同期比:216.3%	D	(成果) ・テレビ局からの取材や、新聞広報により、前年度を大きく上回る実績を上げている。また、今年度からの新メニュー「オールインクルーシブ」(マリアクティビティ&キャンプの複合プラン)では、利用者から高評価のレビューが寄せられるなど、利用者の満足度が高い。 (課題) ・海浜センターの県外に向けたPR (今後の方向性) ・県外向けに、どのような広報が効果的か検討する。	2 海浜センターの機能強化、体験型観光の推進 ・体験プログラムの造成・磨き上げ ・教育旅行の受入 3 ミヶ岡生活体験学校の体験型観光の推進 ・体験及び交流イベントの強化、情報発信
				R3	1,284人	376人	D							
				R4	1,642人									
				R5	2,000人									
観光	25 安田川アオどる清流キャンプ場の再整備による交流人口の拡大と地域の活性化 (安田町) 【実施主体】 ◎安田町	キャンプ場利用者数 2,527人 (H30)	R2	3,000人	53人	-	1 キャンプ場の再整備による磨き上げ ・新規サービスの検討 ・スタッフの人材育成 2 利用者数アップに向けた仕組みづくり ・定期的なイベントの企画及び実施 ・SNS等を活用したPR活動 ・周辺施設との連携実施 ・地域食材の提供	1 キャンプ場の再整備による磨き上げ ・「ひがしこうちでGo!Go!おでかけクーポン券」の適用(5月) ・WEB予約システムの変更(5/27) 2 利用者数アップに向けた仕組みづくり ・利用者数4月:661人(118人)*()内はR3実績 5月:924人(755人) 6月:224人(331人) 7月:877人(839人) 8月:1,905人(1,046人) 9月:483人(703人) 10月:727人(856人) 11月:512人(742人) 11月末までの累計:6,313人 ・コールマンキャンプイベントの開催(10/2) ・クリスマスパーティの開催(12/3) *いずれも宿泊利用者が参加のため正確な参加人数は把握できず	1 キャンプ場の再整備による磨き上げ ・「ひがしこうちでGo!Go!おでかけクーポン券」の適用(5月) ・WEB予約システムの変更(5/27) 2 利用者数アップに向けた仕組みづくり ・利用者数4月:661人(118人)*()内はR3実績 5月:924人(755人) 6月:224人(331人) 7月:877人(839人) 8月:1,905人(1,046人) 9月:483人(703人) 10月:727人(856人) 11月:512人(742人) 11月末までの累計:6,313人 ・コールマンキャンプイベントの開催(10/2) ・クリスマスパーティの開催(12/3) *いずれも宿泊利用者が参加のため正確な参加人数は把握できず	6,313人(11月末時点) (R3.11月末 5,390人) ・R4目標達成率:189.4% ・対前年同期比:117.1%	S	(成果) ・R3年度と比較して全体の利用者数は伸びている。理由としては、コロナ禍によるキャンプブームに加え、R3年度よりも週末の天候が良いこと、WEB予約システムを導入したことなどが考えられる。 ・8月には前年を大きく上回る来場者数を記録した。 (課題) ・9月以降の利用者数が昨年度を下回っており、徐々に来場者数が減ってきている ・周辺施設等との連携による安田町全体の活性化(食材提供など) (今後の方向性) ・定期的な魅力あるイベントの実施による集客 ・周辺観光施設との連携による相互誘客の仕組みづくりの検討 ・周辺施設との連携による地域経済の活性化 ・提供するサービスの質及び顧客満足度の維持	1 キャンプ場の再整備による磨き上げ ・新規サービスの検討 ・スタッフの人材育成 2 利用者数アップに向けた仕組みづくり ・定期的なイベントの企画及び実施 ・SNS等を活用したPR活動 ・周辺施設との連携実施 ・地域食材の提供	
			R3	4,000人	7,111人	S								
			R4	5,000人										
			R5	8,000人										

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(%)	現状分析	
観光	26 北川村観光3施設の誘客強化による交流人口の拡大 (北川村) 【実施主体】 ◎(株)きたがわジャルダン ◎北川村 北川村観光協会 北川村中部地区集落活動協議会 NPO 法人中岡慎太郎先生顕彰会	各施設入園(館)者合計数(4~3月) 94,350人(H30)	R2	100,000人	70,594人	C	1 村外に向けた観光情報等の発信強化 ・SNSやマスコミ等を活用した情報発信 2 3施設及び関係機関との連携強化と各施設の磨き上げ ・3施設間や周辺地域への周遊の仕組みづくり 3 集客に向けた取り組みの強化 ・体験プログラムの造成及び磨き上げ	1 村外に向けた観光情報等の発信強化 ・ホームページやSNSでの定期的な村内の観光情報発信 ・マスコミ(FM高知等)や雑誌を通じた広報 ・北川村ゆずいっばい手帖の発行 ・きたがわむらマッパの再編(8月) ・北川村ゆず新聞の発行(10月) ・日曜市への出店(6/26、9/11) 2 3施設及び関係機関との連携強化と各施設の磨き上げ ・各施設での企画展・イベント開催 【モネの庭】 モネのSNSアートコンテスト2022(3/1~11/30) モネの庭PremiumシーズンPHOTO CONTEST2022(4/16~5/31) 花々展-光の庭-2022(7/17~9/2) モネのナイトキャンパス-Zodiac Sign-(10/1~12/11期間中の土日祝日)など 【中岡慎太郎館】 「利岡家文書の世界-幕末政治情報編-」(8/3~9/26) 学制150年巡回講座(10/15) 【北川村観光協会】 きたがわ村慎太郎バスポート企画第2弾の実施 3 集客に向けた取り組みの強化 ・土佐の観光創生塾等への参加 【北川村観光協会】 土佐の観光創生塾受講(7/12、8/14) 【モネの庭】 来年度のNHK連続テレビ小説「らんまん」に向けた取組の協議(牧野植物園との共通チケット発行など)	92,237人(11月末時点) (R3.11月末 66,197人) ・R4目標達成率:130.5% ・対前年同期比:139.3%	S	(成果) ・前年度同期と比べて、3施設合計の集客数が増えている。特にモネの庭では、コロナ禍前の集客数を超える月もしばしば見られた。 (課題) ・観光協会のマンパワー不足 ・慎太郎バスポート加盟店と観光協会の協力体制の構築 ・モネの庭は好調であるが、中岡慎太郎館と温泉の集客数が前年同月比を下回る月が目立った。 (今後の方向性) ・R5慎太郎バスポートに向けた協議の継続 ・観光協会の業務の見直し、人員増の検討 ・NHK連続テレビ小説「らんまん」の放送を契機とした誘客に向け共通チケット等の導入検討を続ける。	1 村外に向けた観光情報等の発信強化 ・SNSやマスコミ等を活用した情報発信 2 3施設及び関係機関との連携強化と各施設の磨き上げ ・3施設間や周辺地域への周遊の仕組みづくり ・R6年度の中岡慎太郎館開館30周年に向けたイベント等の検討 3 集客に向けた取り組みの強化 ・体験プログラムの造成及び磨き上げ
			R3	103,000人	83,868人	C						
			R4	106,000人								
			R5	108,000人								
その他	27 椎名集落活動センターのたのしいなを拠点とした室戸市椎名地区の活性化 (室戸市) 【実施主体】 ◎室戸市 ◎椎名集落活動センターのたのしいな運営委員会 地域住民団体(椎名常会) 椎名大敷組合 民間事業者	集落活動センター利用者数 6,715人(H30)	R2	7,500人	1,656人	D	1 集落活動センターの取り組みの充実 ・ちいさな海のカフェ 月1回開催 ・百歳体操 月2回開催 ・ビザ作り講習会 月1回開催 ・たのしいな文化祭開催(11月予定) ・お魚祭り開催(12月予定)	1 集落活動センターの取り組みの充実 ・ちいさな海のカフェ 原則月1回開催 ・百歳体操 原則月2回開催 ・ビザ作り講習会 原則月1回開催 ・ピーチーミング体験受け入れを実施(7/18) ・初めてとなる不特定多数を受け入れるビザ焼き体験を実施(7/29) ・運営委員会開催(11/1) ・たのしいな文化祭開催(11/26,27)	1,321人(11月末時点) (R3.11月末 1,067人) ・R4目標達成率:26.4% ・対前年同期比:123.8%	D	(成果) ・計画通り各イベントを実施することができている。 ・適宜新たなイベントを企画したり、またイベントに積極的に出店するなど、取組が充実してきている。 (課題) ・体験受け入れ等の参加者が少ない。 (今後の方向性) ・情報発信の工夫	1 集落活動センターの取り組みの充実 ・ちいさな海のカフェ 月1回開催 ・百歳体操 月2回開催 ・ビザ作り講習会 月1回開催 ・たのしいな文化祭開催(11月予定) ・新しいイベントの企画・実施
			R3	7,500人	1,389人	D						
			R4	7,500人								
			R5	7,500人								
	交流イベント開催数 96回(H30)	R2	200回	161回	C	2 経済的自立に向けた取り組み ・青空市出店募集 ・カフェ、ビザ作り講習会 ・干物づくり体験 ・ピン玉ワーク体験づくり ・情報発信	2 経済的自立に向けた取り組み ・屋外青空市出店募集(毎月土日祝日) ・カフェ(原則月1回)、ビザづくり講習会(原則月1回) ・ピン玉編み体験受入(4/5、7/24,8/2,8/22,9/21) ・ピーチーミング・クラフト体験の商品化 ・活動に関するSNSや市広報による情報発信の継続(随時) ・GW食販イベント開催(4/29、30) ・ふるさとえいもん集マルシェへの出店(10/16) ・甲浦集落活動センターなどで開催されたイベントへの出店(10/30) ・しいな遊海クラブが制作する「シイラドッグ」が日本の宝物・室戸大会にて審査員特別賞を受賞(11/7) ・高知県芸術祭主催イベント「図工と音楽会in廃校水族館」にて、「シイラドッグ」を販売。(11/13)	126回(11月末時点) (R3.11月末 128回) ・R4目標達成率:94.7% ・対前年同期比:98.4%	B	(成果) ・計画通り各イベントを実施することができている。 ・適宜新たなイベントを企画したり、またイベントに積極的に出店するなど、取組が充実してきている。 ・「シイラドッグ」が日本の宝物・室戸大会にて審査員特別賞を受賞したことにより、名物化を目指すことができるようになった。(各イベントで販売するとすぐに完売) (課題) ・体験受入の回数・人数が少ない。 ・イベントで食品を販売するとすぐに完売してしまい、需要に対応しきれない。 (今後の方向性) ・Webページを活用した体験受け入れの実施 ・イベントの充実、周知 ・食品製造量の拡大、適当量の検討	2 経済的自立に向けた取り組み ・情報発信 ・青空市出店募集 ・カフェ、ビザ作り講習会 ・ピン玉ワーク体験づくり ・干物づくり体験 ・ピーチーミング体験 ・イベント・マルシェ等への出店 ・「お魚ドッグ」の名物化	
		R3	200回	179回	B							
		R4	200回									
		R5	200回									

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(%)	現状分析	
その他	28 集落活動センターなかがやまを拠点とした安田町中山地区の活性化 (安田町) 【実施主体】 ◎中山を元気にする会 ・安田町 ・中山合同女性部 ・味工房ねん ・自然薯生産組合 ・安田川漁協	交流人口 5,163人 (H30)	R2	6,000人	53人	-	1 旧中山小中学校を活用した多機能総合拠点施設の整備及び運営 ・映像村の管理及び広報活動	1 旧中山小中学校を活用した多機能総合拠点施設の整備及び運営 ・映像村パンフレット作成に関する協議 (6/24) ・映像村紹介動画のYouTubeへのアップ (10月) ・映像村パンフレットの完成 (11月) ⇒町内、周辺市町村等へ配布。地域本部経由で東京事務所、大阪事務所に発送。 2 経済的自立に向けた取り組み ・自然薯付け作業 (4/5~14) ・自然薯収穫作業 (11月末~) ・自然薯直売会 (12/11)	6,313人 (11月末時点) (R3.11月末 5,390人) ・R4目標達成率: 126.3% ・対前年同期比: 117.1%	S	(成果) ・コロナ禍で停滞していた学生の受け入れが再開された。 ・アユの友釣り体験やゆず収穫・搾り体験の実施など、新たな体験プログラムを実施することができた。 ・映像村パンフレットやYouTubeへの動画投稿によるPRの開始 (課題) ・映像村に関する都市圏の専門学校へのPR及び利用促進 ・自然薯の安定的栽培や栽培技術の確立と地域への普及 ・自然薯の種芋栽培に関する方向性の決定 ・自然薯を活用した商品の開発・販路開拓	1 旧中山小中学校を活用した多機能総合拠点施設の整備及び運営 ・映像村の管理及び広報活動 2 経済的自立に向けた取り組み ・自然薯の栽培拡大及び自然薯を活用した経済活動の充実 ・自然薯を使ったクッキーやシフォンケーキのイベント等への出展によるPR活動 ・JAや農振センターとの協力による勉強会等による栽培方法の確立及び地域への波及
			R3	7,000人	7,111人	A	2 経済的自立に向けた取り組み ・自然薯を使ったクッキーやシフォンケーキのイベント等への出展によるPR活動 ・JAや農振センターとの協力による勉強会等による栽培方法の確立及び地域への波及					
			R4	7,500人			3 集落活動センターの取り組みの継続及び発展 ・元気にする会定例会、よってん屋、健康づくり教室等の開催 ・定期刊行物「なかがやまじかん」による情報発信及び配布に伴う高齢者見守り活動 ・高知大学生の実習受入れ ・SUJIIプログラム受入れ ・山芋まつり開催の検討 ・ふるさとのえいもん集マルシェへの出展					
			R5	8,000人								
		集落活動センター利用者数 3,308人 (H30)	R2	5,000人	1,490人	D	3 集落活動センターの取り組みの継続及び発展 ・おもてなしの水辺創生事業 (5/23~25) ・高知大学医学部看護学科実習受入れ (5/24~26) ⇒3名 ・高知大学人文学部実習受入れ (6/18~19) ⇒4名 ・よってん屋の開催 (7/22、10/4) ・アユの友釣り体験 (8/5 ゆずフェス企画) ⇒4名 ・SUJIIプログラムの受入れ (8/22~27) ⇒8名 (高知大生2名、インドネシア学生6名) ・奈良学園高等学校修学旅行ゆず収穫・搾り体験実施 (10/18) ⇒17名 (生徒16名、教員1名) ・高知新聞観光ツアーゆず搾り体験実施 (12/4) ・室戸明星トラベルゆず搾り体験実施 (12/14 20名) ・なかがやま自然薯と地場産品直販会の打合せ (10/20、11/17)	1,236人 (10月末時点) (R3.10月末 1,008人) ・R4目標達成率: 42.4% ・対前年同期比: 122.6%	D	(今後の方向性) ・映像村パンフレット作成後に都市圏の専門学校を中心にPRを実施する。 ・農振センター等との連携による自然薯栽培の確立及び種芋栽培に係る方向性の検討	3 集落活動センターの取り組みの継続及び発展 ・元気にする会定例会、よってん屋、健康づくり教室等の開催 ・定期刊行物「なかがやまじかん」による情報発信及び配布に伴う高齢者見守り活動 ・高知大学生の実習受入れ ・SUJIIプログラムの受入れ ・山芋まつり開催の検討 ・ふるさとのえいもん集マルシェへの出展	
			R3	5,000人	1,972人	D						
			R4	5,000人								
			R5	5,000人								
その他	29 集落活動センターやなせを拠点とした馬路村魚梁瀬地区の活性化 (馬路村) 【実施主体】 ◎集落活動センターやなせ運営協議会 馬路村	観光客入 込数 4,853人 (H30)	R2	5,435人	2,990人	D	1 地域資源を活用した新事業の展開 ・新事業の検討及び試行 ・観光施設の指定管理運営 (キャンプ場、森林鉄道)	1 地域資源を活用した新事業の展開 ・木質バイオマス活用村検討会への出席 (5/31) ・森林鉄道グッズ「森林鉄道キーホルダー (手作り)」の販売開始 (6月~) ・森林鉄道グッズ新商品「メッセージカード」、「フレークシール」の販売開始 (8月~) ・高齢者の外出支援 (モニター) の実施 (安芸市内・12/6) 2 交流人口の拡大 ・魚梁瀬地区お花見会の開催 (4/3) ・森林鉄道「鯉のぼり列車」(客車を飾り付けた列車) の運行 (GW期間中) ・フェスティバル魚梁瀬の開催 (7/16) ・キャンプ場にて中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会主催「中芸アドベンチャーリズム」モニターツアーの宿泊者受入れ (11/8~9、12/13~14) 3 情報発信の取り組み ・集落活動センターやなせの広報発行、地区内配布 (4/10、6/10、8/10、10/10、12/10)	4,253人(11月末時点) (R3.11月末 4,542人) ・R4目標達成率: 106.0% ・対前年同期比: 93.6%	A	(成果) ・コロナ対策を講じたうえで、地区住民向けに3年ぶりにイベントを無事開催できた。 ・高齢者を対象とした買い物等への外出支援を試験的に実施するなど、新たな取組への着手が進んだ。 (課題) ・新たな取組を行うにあたっての人員確保。 (今後の方向性) ・試験的に実施した外出支援のような高齢者の生きがいづくりのための取組 (外出支援、お花見等) にも着手していく。	1 地域資源を活用した新事業の展開 ・新事業の検討及び試行 ・観光施設の指定管理運営 (キャンプ場、森林鉄道) 2 交流人口の拡大 ・特色ある交流イベントの開催及びブラッシュアップ 魚梁瀬桜まつり (4月) フェスティバル魚梁瀬 (7月) 秋の観光ツアー (10~11月) 3 情報発信の取り組み ・広報やPRの検討及び実施
			R3	5,726人	5,487人	B	2 交流人口の拡大 ・特色ある交流イベントの開催及びブラッシュアップ 魚梁瀬桜まつり (4月) フェスティバル魚梁瀬 (7月) 秋の観光ツアー (10~11月)					
			R4	6,017人								
			R5	6,300人								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(%)	現状分析	
その他	30 集落活動センターがいせいを拠点とした“小さくてもっと元気で輝くむら”づくり (芸西村) 【実施主体】 ◎集落活動センターがいせい 芸西村	加工品等販売額 108万円 (H30)	R2	260万円	180万円	D	1 特産品づくりと外商活動 ・新商品の企画・開発と商品の磨き上げ ・加工品等の取扱い事業者の開拓 ・ふるさと集マルシェやまるごと高知でのプロモーションに参加。 2 経済的自立に向けた取り組み ・竹の伐採や松原の雑木処理等の受託の継続 ・新規事業の検討	1 特産品づくりと外商活動 ・まるごと高知の商談会に参加 (6/23) ・地元小学生から役場に提案のあったお菓子の商品化 ⇒中山間振興アドバイザー (お菓子作りの専門家) による指導を実施 (8/30、9/13、9/27) ・加工品等の取扱い事業者の開拓 ⇒グルメ&ダイニングスタイルショーに参加 (9/7~9) ・高知県産品商談会に参加 (10/26) 2 経済的自立に向けた取り組み ・シキミの栽培と販売 森林技術センターによるシキミの栽培の講習会に参加 (7/5) ・ふるさと納税の受注による事業の拡大 ・「竹灯りの宵」の伐採・設営の受託 ・近隣の草刈りや松林の雑木の伐採 ・集落活動センターの活動を担う会員の募集	223万円 (11月末時点) (R3.11月末 170万円) ・R4目標達成率: 79.6% ・対前年同期比: 131.2%	C (成果) ・中山間振興アドバイザーを活用し、お菓子づくりの講習を実施したことにより、新商品の開発・販売に至った。 (酒粕プリン・白玉糖ムース等) (課題) ・集落活動センターの活動を担う会員の増加 (今後の方向性) ・センター会員の確保に向けた継続した広報 ・効率のよい商品の製造や販売ができる体制づくり。	1 特産品づくりと外商活動 ・新商品の企画・開発と商品の磨き上げ ・加工品等の取扱い事業者の開拓 ・ふるさと集マルシェやまるごと高知でのプロモーションに参加。 2 経済的自立に向けた取り組み ・竹の伐採や松原の雑木処理等の受託の継続 ・新規事業の検討	
			R3	340万円	308万円	B						
			R4	420万円								
			R5	500万円								

地域産業クラスタープロジェクトの推進

地域に根差した産業を核として、その周りに様々な産業を集積させる「地域産業クラスター」の形成に取り組むことにより、第一次産業から第三次産業までの多様な仕事を創出し、若者が地域地域で働き続けられる土壌づくりを目指していきます。クラスター形成を目指す「クラスタープロジェクト」として、18のプロジェクトを位置づけており、その一つひとつに、県、市町村、関係団体等で構成する「プロジェクトチーム」を設置し、プランの策定からその実行までをサポートしていきます。

地域	分野	プロジェクトNo.・名称	取り組み概要（目指す姿）	取り組み状況	
安芸	農業	No.1 日本一のナス産地拡大クラスタープロジェクト	<p>県東部の基幹品目であるナスの生産拡大を目指して、新技術の定着や担い手対策を進める。また、ナスの機能性表示を生かした青果販売や新たな加工品の開発・販売及び地元飲食店等での利用促進に取り組む、クラスターの形成を図る。</p>	これまでの取り組み（H28～R3）	<p>日本一のナス産地の維持・発展のため、最新技術の研究及び導入から新規参入まで一貫した支援を実施。また、ナスを活用した新たな加工品やメニューの開発に取り組むとともに、道の駅大山や地元飲食店等による販売促進を行ってきた。</p> <p>R2年度は環境制御技術の向上や病害対策の徹底等に取り組む、出荷量が5,162tとなった（R2目標4,805t）。また、焼きナスソフトクリーム及び焼きナスの豆乳アイスの開発をするとともに、市内のナス料理等提供店18店舗が参加するスタンプラリーを開催した。</p> <p>R3年度には、環境制御技術の向上や病害対策の徹底指導を継続し、新規就農者に対しては経営・栽培指導を実施したことで、出荷量は5,452 tとなった（R3目標4,895 t）。また、機能性表示のPR動画の公開及びチラシ・ポスターののぼり旗の作成を実施した。</p>
		<p>関連する地域AP</p> <p>No.2 日本一のナス産地拡大クラスタープロジェクト</p>		R4年度の取り組み	<p>引き続き、環境制御技術の向上や病害対策の徹底、データに基づく栽培指導等に取り組むとともに、新規就農者に対して重点的に経営・栽培指導を実施したことで、出荷量は6,020tとなった（R4目標5,265t）。また、消費拡大に向けて、新たな加工品「冷凍揚げナス」の開発を進めるとともに、市内のナス料理等提供店が参加するスタンプラリーも開催した。</p>